

広河原能見町



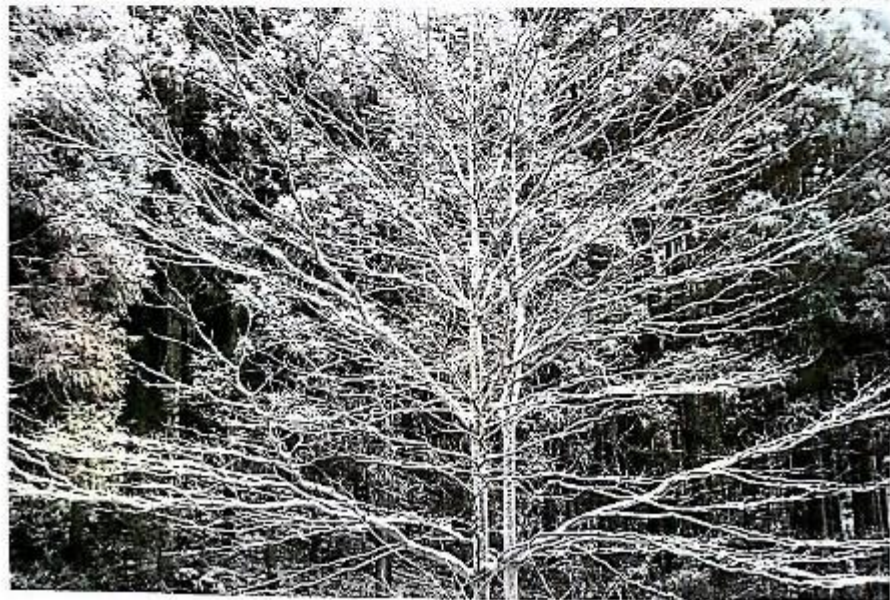
冬の山は…
秋の賑わいがうそのように
そこはかとなく
寂しい表情をする

新雪を踏みしめる
この感触
雪とたわむれる
わずかな うすらひに
心はずませ

まだ誰も歩いていない
この白き道を
目的の山へと登る

今、この喜びを
粉雪の詩に乗せて
届けたい

雪の樹冠 (芹生にて)



京都北山撮影紀行 ②

さん や しょう よう 山野逍遙

——粉雪の詩——

撮影 北川裕久



大見雪原 (大原大見町)

●目次

表紙：松田敏男「池山吊尾根より間ノ岳を望む」

●作者プロフィール●1941年、京都生まれ。京都府立産業大学卒。
1987年より山登り、山岳の探検多数執筆。(京都平安通、朝アルプス小説、叢書) 京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一歩二歩研究会会員

●グラビア

京都北山登山影紀行

随想(山のニッセイ)

二冊の本

モミの木

伊勢神宮と朝熊山

ドウドク山

烏帽子岳

千歳山から謀ヶ岳へ

天台山から妙見山

任の洞へ

エリア 京都北山(高野・高滝・愛宕山周辺の山)

別研究 新雪を踏んで冬の日福りコース(概観)

①香櫨ノ滝と沢ノ池 ②朝日ヶ峰・臨山

③地蔵山 ④三頭山

●文学 歴史探訪ハイク②

三輪山に神々を訪ねて

コース ①福村ヶ岳

ガイド ②天高山

③謀ヶ岳

④武余ヶ岳

●アウトドア・ライフ入門②

アニマル・トラッキング

●たのしい山歩き

尾瀬雑考②「ジャンケン大会」

拾録ハイキングガイド

せせらぎ

サービステーション

北川 裕久

安田 憲弘

平野 耕也

多摩 雪雄

豊佐次盛一

内田 嘉弘

遊津 米男

安田 憲弘

稲垣いつを

北川 裕久

松永 恵一

松田 敏男

坂井 久光

小山ひろし

濱田 啓司

二名 良日

松下 潤

55

58

58

54

55

58

58

54

55

58

58

54

55

58

58

54

巻頭言

山の雑誌を出すというのと、知人に「どんな本ですか」と質問される。単に「ハイキングの情報誌ですよ」と返事をしますが、うまく納得してもらえない。

すでに「新ハイキング」の既知であれば、分かってもらえるが、関西では知っている人が少なく説明に困ることが多かった。関西版1号が出たので本を見せつけてやっと納得してもらえるようになった。

しかし「どんな本」であるかということとは雑誌を作る側にとっても、読者にとっても大切なことである。形だけ聚えて発行すればよいというものではなさそうに思う。

ハイキングの本で重要なことは、情報が新しいということだろう。自然の状況は常に変化し、関西などによってコースも変わってきている。特に関西などでは都市近郊の山ほどそれが激しい。私の体験からもう10年前のコースが全く当てにならなくなったことがよくある。

本誌の記事は文藝の表現力より、正確さを大切にしたい。コースガイドは勿論、旅行文もこれを読まれ、興味を持って次の山行資料にされること多い。振略地形図も、もっと工夫して分かり易くしたい。

新ハイキング関西(代表者) 村田晋俊



雪の武余ヶ岳 (比良)

編集室



西南稜の雪景色 (比良)

編集室



死

二冊の本

安田 憲弘

手元だ、二冊の古びた本がある。タイトルは「登山入門」と「回想のヒマラヤ」。著者は伊藤洋平。これらの本を手にするとき、さきさきまな恵いが心をなやませる。

伯耆大山に初めて登つて、山の美しさに感ぜられたのは、1955年の夏である。その年に大谷幸を由り、大山のふもと、米子市に職を得たのだ。2度、3度と大山に登るにつれて「山登りについて少しもともに勉強せねばなるまい」と、まずは、入門書を読みた。近くの本屋で、たまたま手にしたのが、伊藤洋平著「登山入門」(童書房、1955年)であった。以来、何冊も読み返し、山行のときは、この本に記された用語集で準備・点検して出かけるのが常だった。

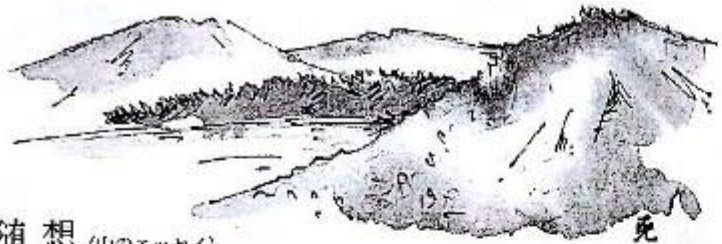
さて、それから28年、1984年の夏、著者の伊藤洋平氏に会う機会を得た。当時の京都大学医学部長・伊藤洋平教授、その人である。初対面のはくは、厚かましく、こうお願ひした。「先生のお書きになった『登山入門』をもっています。何時か、この本に先生のサインをいただきたいと思つていまして。」「その本は、もう著者の手元にもない貴重な本です。喜んでサインしますよ。」「滋味あふれる温かい交談であった。

しかるに何たること、翌年の晩夏には伊藤先生の追悼式に出席することにならうとは、お会いした時には、すでにガンが作患に進行していたのだろうか。ガンの研究者がガンで倒れる、仕組なる暇、というべきか。

追悼式は、京大医学部の講義教室で行われた。式の間には、京都大学学士山登会がヒマラヤのアンテナルナ峰に遠征したとき(1953年)の記録映画が上映された。これは、伊藤先生と自身が撮影されたものだという。

「先生は、登山家・研究者・教育者として、一人で三人分の人生を生きたら、・・・」との追悼の言葉が述べられた。徳高・屏風岩の初登、山岳雑誌「登山」の創刊、ワイルズの感懐(DNA)で初めて人工的に発ガンさせることに成功し、第7回野口英世記念医学賞を受賞(1963年)、医学部長として、教育・研究の場を良くする手段として、大学構内に楠木を植えることを熱心に進められたという。多くの参列者にもまして、遺影の前で白菊を捧げて永遠のお別れを告げたのだ。

1987年の秋、神戸・三宮の古書店で、「回想の山脈」(藤本一英・田代博雄著、実業の日本社、1987年)を買つた。「こんな新しい本が、もう古本屋にできるか・・・」と、懐懐みされたのを棚から降ろすと、一冊の小冊子が乗つてきた。見る、。「回想のヒマラヤ」―伊藤洋平―とある。



死

随想 (山のエッセイ)



1955年発行の「山脈・山岳叢書」の二冊であった。奇縁を感じて、二冊一括に購入した。

「回想のヒマラヤ」は、童書房の出版部編集長の菅原英「登山入門」の刊行のころのいきさつなどを語られていて、まさに、貴重な本である。

もはや、著者のサインの入ることのない「登山入門」と「回想のヒマラヤ」。多くの年がある限り、大切に保存していきたいと思つた。

回想録は、Y社の助成による近畿理工大学生物研究会のメンバーであり、著者は、その事務局長であった。

モミの木

平野 耕也

性格が軟弱にできているせい、昔話をヒントに作して立ったり座つたりしている巻紙の手で、「あなたの巻紙は誰様か」と、いつも妻から非難を受けている。

そのために、逆も明治生まれの御老人やフランメンコの踊り手といった人達の、昔話をヒントにしての巻紙にいつも数冊の念を抱いている。

そして、この両者は現在の日本ではあくまで少数派である。

京都北山は北山杉の北山で、圧倒的に杉の多い山域だが、どこそこにはほつんとほつんとモミの木が立っていて、明治生まれの御老人、フランメンコの踊り手達と同じように温高の巻紙を染わせて

いる。

「みんなでいっしょに染ればわくわく」という言葉がいくと流石に「世間合合わせ」といふことに価値観を置いてきた日本人には懐々の顔がなく、それが団全体にも現われて、団員的にも「何を考えているのか判らぬが、団員の知らない段の団」といふ烙印を押されている。

「みんな」に歩調を合わせることによって自分が真理を追求するところを知り、右顧左顧ばかりしているうちに、知らず知らずのうちで、私達日本人の背がぐにぐにやにやに曲がっていきなかつたか。

「カネカネ」ときよきよきよと化してはなかつたか。

悪化するのを恐れて、まっすぐに大をきまして立っている京都北山の中のモミの木を見るとき、「ああ、かなわいな」と、いっつも思つてしまう。そして、リネックサックを降ろして休憩す



随想 (山のエッセイ)

る。

松よりもまめの細かいうろこに覆われた幹、車状に出てくる太い横枝、密生した針葉を荘厳な造形立てを備えてモミの木はじつしりと立っていて、ストレスに疲れた心を静かに癒してくれる。

モミの木―低木の木というイメージで京都北山を歩いていた頃だが、仰木幹から水弁山、横山と歩いて比叡山に入ろうとした時、群生しているモミの木を見て一瞬裏切られたような気がした。

看板が立っていて、群生のモミの木の説明に、実はかつて比叡山は平山モミの木に覆われていて、今はわずかにここに残っているだけとある。

「ああ、そうか」昔からモミの木には心を静め、祈りを天にささげるにかきわしい木として考えられてきたことが判って目からうるこの落ちる気がしたものだ。

このモミの木は西洋において信仰と深く結びついていることは

衆知の事実。

例えはクリスマスツリーはこのモミの木だし、また「神の木」と呼ばれることもある。

またこれは意外と知られていないことだが、このモミの木は材質としては柔らかく建築などには向かないらしい。

そこで棺おけの材料として使われ、死者と共に焼かれてしまうという運命をたどることも多いとい

もつたない気がしないでもないが、あの柔らかく白い材質が死者に最後の眠りを贈るのにふさわ



しい。

さて、あのキリストが最後に背負っていた十字架は何の木でできていたのか、前から気になって目をつく範囲の植物をあざってみるが、これといった確証ある答えはでてこない。

そこで勝手に、おれはモミの木でできていたと決めていた。頭上の冠がきりきりと肌に食いこみ血をしたらせざる。そんな時、白く柔らかなモミの材質が一瞬でもキリストに安らぎの気持ちを与えたことにはなかつただろうか。

鳥羽めぐりをかねて

伊勢神宮と朝熊山

多摩雪雄

伊勢

山は、歩いて登るのが基本です

私達の探訪した名所や、これから訪れようとする神社仏閣が、不連続なことに、その半額以上にテレビで放映された、「歴史館開館の別館、甲府一宮の桃園、朝熊山の大門彦平造、越後の弥生神社、そして、私達自身が造詣体となった多摩武蔵の淡山神社や比叡山参道等。

ただ、山を歩くだけでなく、その周辺の名所古蹟を訪れる旅を志して久しい。先に山頂を眺むだけの、暖かい計画と異なつて、実りある多くの山里や、野原にふれた。

一等三角点を丁度目探訪した。と、いう人は、車を利用して是給距離からの、ピストンが大平だとも言う。人、それぞれの意向で計画するのだから、風や角、言うべきではな

いが、山は、頂上に登つた数を願うべきではなく、登山の精神は探訪にあるのだから、堅

屈なマイクログラスで、巡行する気には、私はなれないし、紀行文を執筆するからには、正規の交通機関を利用して、誰よりも二人でも、或いは多勢でも、訪れることの出来るコースを、速達することを大原則としている。

宿も車もついでにしました

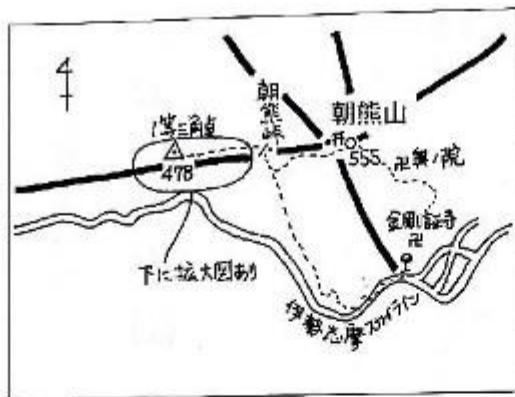
1月下旬、8名で総て手配済みの、決行数日前に、追加参加2名の申し入れがあった。これが、結果的に好転した。

私は、8名または12名での4人単位で、半年前に予約をしておく。タクシー利用に便利であるし、列車の座席も、心おきな我が家

朝熊山一等三角点にて

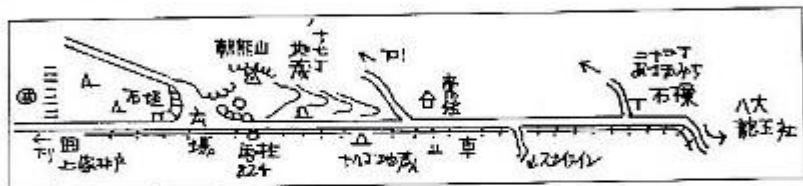


鳥羽の国民宿舎員、人数増加OKであったが、伊勢は厚生年金会館に変更した。別館だったが、大仏堂や食堂への行き、早歩き、の道中は、本館泊まりでは味わえない、素晴らしい道程が楽しめた。また、比叡へ来たいね。と、誰もが口にした。駅前の混雑した旅館をキャンセルして、タクシーを使つても、はるかに楽が多かった。



記号は道の北側に、小茶園も耕する常任の家屋であり、乗向車も駐車していたが、人影は無く、金剛院寺縁の者でもあろうか。

東西に通じるこの路上車道の両側に、電線が架せられ、家のすぐ西先側に十八丁地蔵、その先北側に十七丁地蔵、電柱824の北側は小広く、此道で車道は分岐して、広道の北側を巡って、やがて直進道に合している。この直進道は分岐からゆっくり下って、接々



と通き出る道は戸生戸に、上家を掛け、火分下って右折道に出る。

十七丁地蔵と小広場の間の、小さな盛り上がり、樹木に囲まれた狭い頂上、一筆三丁と天淵点がある。

時、朝熊山の家屋記号は、倒壊して壊れた跡があり、二十丁あさままの石標と、北西から登ってくる小道は自然としている。

「伊勢へ参らば朝熊をかけよ、朝熊かけねば片参り」この朝熊山で弘法大師が修行している、早朝に取られた熊が、夕方には熊姿蔵菩薩に化身した故林にあり、名付けられたもの、だ、という。

内宮で、タクシー待ちをしていると、ひとりの男が近づいて来て、何人ですか、丁度二人乗りの大型があります。と、いうので、長い行列の最後尾を離れることが出来たし、翌朝の迎え車も予約した。

朝熊山一等三角点からの楊路、終バスぎりぎりの時間だから急げ、と、督促し、平地の女子K女史を先行させて、バスを停めるように指示する。万一、間に合わねば、タクシーを呼べば良いのだが、調子の悪いおぼんを気付かないながら、朝熊峠から南奥に下る車道を急いだ。

「早くー。バスが来たわよー」

待つていてくれたバスに、全員が無言乗り込む。

「前の便で、あなた方を朝熊さんへ乗せたかえ、すぐ判りましたよ。今日は成人式で帰んでいるから、タクシーは上って来ませんよ」と、ここにこ顔で話してくれ。

夜は辛く、接れるので、東京朝立ち、鈍行乗り継ぎの、宵暮18キップで九一日費やして、第一日は鳥羽泊まり、国民宿舎の夕食は、鍋活造り、甘海老、大工湯麩と什菓の作り物、総土体のすき焼き、海老・ピーマン・蓮根等の天婦羅、なまこの酢の物、茶碗蒸に漬物、食べきれない豪華さであった。

厚生年金会館は、受給者とその妻と、現職者と一人と、4段階の料金が、私のグループは、面倒な各個計算を行わず、総計を参加者数で割る方式を取っている。例えば、妻を食っても飽を食しても、酒を呑んでも着まなくても、同じなのは、俄かお計の負担を少しでも軽減したいからである。

この日は、急造大焼が2組出米で、どちらも御飯の様子であった。

伊勢に参らば朝熊をかけよ

2日、鳥羽から大工路への半日観光をする。私の最初の配属が、伊勢防備隊水雷戦隊で、現在パールブリッジで渡れる御木本真珠島が、司令本部であった。その頃の鳥羽の裏道は、誰かが続いた小さな二階家が、軒を連ねた漁師町で、今は、もう、その面影はないが、大工路灯台への片側並みと、狭い台地に石積工法による宅垣造成の技法は、矢張り、鳥羽のものであった。

バスターミナルに戻って来たのが12時45分で、昼食する間もない13時ジャストに、朝熊山經由・伊勢行の山登りバスが到着し、僅か20分で、朝熊山頂のレストハウスに着いたが、此処で食卓してから奥ノ院を目指す、伊勢へ下れなくなるので、次の金剛院寺で下車す

登山に必要なものは、
 国産・舶来
 すべて揃っています。

〒004 京都市中京区丸太町通堀川東入
 ☎ <075> 211-5768
 FAX <075> 231-0318

山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

宝物館を自學し、精進庵を撮いた茶店で抹茶を喫しながら、各自の食料を出し合って、遅い昼食後、14時に仁王門茶店を出て、在社至塔婆の林立する奥ノ院には、約15分で達し、其処から近道をとって、奥ノ院を右下に見る小径を、更に15分で進んだ朝熊山の小広の頂上には、八大龍王社、龍神池、トイレもあって、富士山を筆頭に十八州の辰屋台となっており、車道も登って来ているが、図上に怪路記号のない真西への尾根道を下って、朝熊峠を過ぎる。

三角点周辺は西公園となっていて、一軒家

伊勢の裏道は是非歩いて見よう

15時55分車道に出て、終バスにからくも間に合い、内宮に参拝して、ジャンボタクシーで厚生年金センターに入る。夕食は、鍋と餅の刺身、獅子の胡麻黄、什菓フライ、海原餅の物、大根・ほうれん草・鶏の炊物、塩煮布、茶碗蒸、漬物と汁、鳥羽には到着及ばないが、2千円も現金に差があるのだし、まあ、満足出来る料理であった。

湯元の日、外宮に参拝後、前夜に月夜宮も参拝し、列車の待時間を利用して、後継者のいない生茶蔵の伊勢屋を見付けたり、湯汗の伊勢うどんを食味したり、古い家並みの裏道を逍遙したりして、豊かな地方色を満喫したのであった。平成3年1月14日・16日歩く

〈コースタイム〉 昭々文中を参照

〈地形図〉 2万5千1鳥羽

〈参考〉

国民行舎あろみ荘 (鳥羽市) 0599 (25) 5142

三重厚生年金休養センター (伊勢市) 0596 (35) 1200

三重交通バス伊勢営業所 0596 (23) 5131

ドウドク山

吉野

慶佐次 盛一

吉野の「ドウドク山」へ登ろうよと、Nさんの提案。聞き慣れない山だと地形図を調べてみると、奈良県生駒郡下市町と黒滝村の町界の721峰の山だ。私の地形図にはそのピークに「タワント山」の名を記していたが、Nさんの話では最近のガイド図では「ドウドク山」という名前になっているらしい。面白い名前じゃないか。一度登ってみようかと早速大阪を6人で出発する。

近鉄同僚駅から吉野行の特急で下市口駅で下車、タクシーを白を連れて鳥住へ向かう。鳥住へはバスの便もあるが、恐らく登山者にとっては利用出来ないダイヤ構成であろう。さてドウドク山だが、ガイド図には山名が記されてはいてもコースは示されていない。何

処から登るか。ドウドク山は一度登ったことのある百目岳の西500mの山だ。百目岳は地蔵峠から登ったので、ドウドク山も鳥住の地蔵峠から登るのがベターであろうというのがNさんの意見であった。

以前は鳥住までは、下市口から秋野川の続行沿いに走ったので随分時間がかかったものだが、今はトンネルが開通してかなり短縮された。それでも鳥住に近づくと積雪が増え、急勾配と急カーブの続く公道にタクシーは無気味なスリップを繰り返す。運転手も滑一杯頑張ってくれたが、鳥住のバス停まで来るともうこれ以上は進めませんよと、とうとう音をあげてしまった。

Nさんの計画では地蔵峠まで入るつもりだ

ドウドク山「高野根の原生林」



つたらしいが、ここまで来ればもう地蔵峠は遠くない。運転手をねぎらつてタクシーを捕した。参考にとバスのダイヤを調べてみると、一日に2本だけだ。これじゃあとでも登山には利用出来ないだろうし、冬期の運行も懸念される所だ。

鳥住は秋野川源流の村。かなり高所の地に民家が散居する。人影も見えない静かな村だった。その静かな村をより一層静寂にさせる

のが、一面に積もる真っ白な雪だった。こんな険しい山の中で、農務では生活は立てられないだろう。近くに作業小屋があり、研ぎ丸太、絞り丸太などが整然と立て掛けられているのを見ると、林業でなりわいを得ている村なのであろう。ふと、木地蔵のことが頭をよぎる。

作業小屋を借り、雪に備えて足許をしつかりと固め、服装も整えて地蔵峠に向かう。積雪は20cm位だが、雪の上のわだちを辿りながら、見事に育った樹林の車道を進むと地蔵峠だ。左へ登って行く林道は、百目岳への登降となる鳥居峠への道だ。

ここに、鳥住地蔵とも呼ばれる小さな地蔵堂がある。地蔵堂の裏に祀られた地蔵には弘法大師のゆかりがあるとも言われ、その昔この辺りに棲息していたオロチ(大蛇)を、御理窟大師(鳥住)が法標の音で退治したともある。百目(壱)岳の名も、まつらわぬオロチを退治した御理窟大師の法標の音に因り山名なのだろう。

鳥住界では法標の音はお釈迦様の説法の声と「われ、悪魔を退治させるものと信じられている。この地の悪魔はオロチなのだ。果してそんなオロチが居たのだろうか。各地でツチノコの話がよく聞か、私は信じない方

だ。恐らく小さな蛇が、自分の身体の数倍もある獲物を呑み込んだ姿がツチノコとして伝わった話であろう。オロチ退治、御理窟退治も各地に残る伝承だが、これは古代仏教による先住民の教化を伝える伝承なのだ。

仏教が志国に浸来するまで、我国の古い宗教には善悪信仰があった。そしてその殆どが古代の産婆民が信仰する宗教であった。渡来した古代仏教はその勢力圏を拡大するため、土着の神祇信仰の改宗に努めている。仏教による教化、法力という名のもとに押し進められた祈伏だが、古代においては半ば強引に迫った祈伏でもあったようだ。

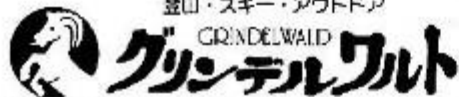
この地のオロチとは、やはり土着の産婆民のことであろう。オロチは法標の音で退治されたそうだが、百目岳の名が気になる。今の親鉄でも原産は一緒だが、古代の産婆ではタカラ石を築き、砂鉄と炭を交互に重ねて吹子で風を吹いて鉄を作った。だからタカラ製鉄のことこそ、「鉄を吹く」とも言ったのだ。有名な伊吹山も、昔は「鉄吹山」のことであろう。鉄と鉄を「吹く」という言葉から考えると、オロチを退治したという法標も「吹く」ものだ。百目岳の目の字に「標」の字も当てているから、伊吹山が「鉄吹山」であったように、百目岳は鉄(金)標が採れた山だと推測出来

地域に合った品揃えを目指しています。

三重県唯一のプロショップ

登山・スキー・アウトドアのことならおまかせ下さい。

登山・スキー・アウトドア

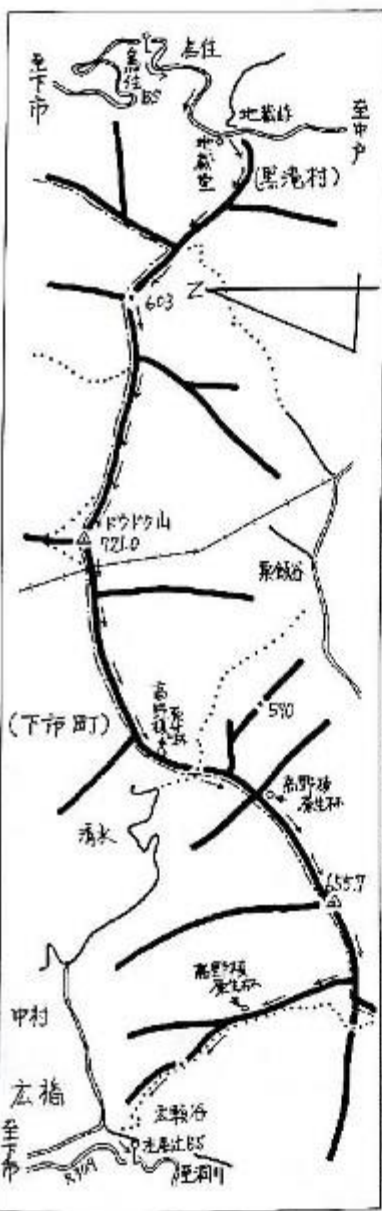


営業時間 AM10:30~PM8:00 毎週月曜日定休

三重県四日市市観音町13-3 TEL. 0593-54-0627

る。法興、洞などの名前のついた山名や地名、或いは貝、田楽などの地名も土代の遺跡から考えたと大層興味がある。ではどんな金銭が採れたのか。弘法大師望海もまつわるとあれば、多分銅であろう。するところから見る、ドウドク山」の山名が生きてくる。ドウドクは「銅書」かも知れないが、銅床を表わす「銅床」が音出したものであろう。

地蔵堂の横に、真っ白い雪に埋もれたドウドク山への軌道があった。山腹を巻いて行くような道だったがやがて後線に降り、植林の杉の葉からたつぷりと雪を買いながら、緑のアップダウンを繰り返して後線を選んだ。



つし下市町と黒滝村の町界線となり、町界の細い切り開きを通る。途中茂原木が前を塞ぐ所もあったが、北面が丘陵地となり吉野川を隔てて黒滝峠、吉野山の山並みが見え、ドウドク山も目の前に迫ってきた。ドウドク山は見映えがせず写真も撮れなかったが、頂上の三角点の切り開きからの眺望を楽しみに自然と登る足は早くなった。

は裏切られた思いだが、この後線がその本道を保障するのはこれからだ。下市町を過ぎて後線の右を登り、黒滝峠の苗木の山腹となり、先の黒滝峠、吉野山の山頂に上ると尖った鳥の嘴山も見え、黒中とも呼ばれる奈良盆地を越えて牛駒山、金剛山の長大なスカイラインが見えた。

くねった太い幹の林立は私達に荘厳な感じを与えてくれた。

清水と並飯谷を結ぶ峠への下りは一帯高野の枝葉だった。それでも山腹に後線を通れば無名の峠に無事な下り。時は茶屋でも建っているような広い所で、北風を避けて黒滝河川の植林で涼風をとった。

無名の峠からは町界線の取付きに無く、適当に後面を察して後線に出ると切り開きが現われた。こちらの後線にも所どころ高野の原生林が残っていた。恐らく高野の苗木の母樹であろう。今は植林が目立つ山だが、昔のこの山腹は高野の樹に覆われていたものであろう。そんなことを仲間達と話しながら雪の後線を行く。伏見地は下市町側が多く、影と広がる奈良盆地を眼下に見ながら歩く雪の後線は爽快感がなかった。

誰の踏み跡も無い白い雪の斜面に私達6人の足跡をトレースしながら、いつしか656の三角点を目指していた。三角点までは少しの登りではなかった。旧2万5千分1中百区画では658の4等点で三角点だが、最近655・7の4等三角点が新設されている。三角点ピークへは正確に登って紅白のボールも見たが、お目当ての三角点が見つけられなかなかならなそう。やっと見つけ

けてくれたのはこの日の紅一点の日さんだった。彼女には鈴鹿の土蔵の三角点でもお世話になったから、採し物は男よりも女性の方が上手だ。それだとしてもこの三角点、愛媛から数分も北へ下がっているから一寸分りにくいだろう。

三角点から更に町界線後線を通ったが、もうそろそろ上へ下らないといけな。広瀬谷と下ノ谷を結ぶ後線の道から下市町の広瀬谷へ下るつもりだったが、その手前のピークに広瀬谷へ下る細い踏み跡を見つけて、その踏み跡を下った。やがて地影の遊線道に合流して道はぐんと広くなる。大方は植林帯だが、こちらの道にも高野の古木が流れているではないか。

途中の小さな集落を過ぎればセメント舗装の道になり、冬の柔らかな陽を浴びながら広瀬谷へ下って行く。しかし標をつく急な坂道は山腹が滑るのでのんびりと下る訳にも行かず、かえって悔しいだった。

平成32年2月10日歩く

コースタイム

下市町駅(タクシー)30分 峠(15分) 地蔵峠(50分) ドウドク山(40分) 清水と並飯谷を結ぶ峠(40分) 656の三角点(35分) 広瀬谷(5分) 庄原辻バス停(奈良会館)バス3分 下市町駅

費用

近鉄往復(特急を含む) 2,820円
 下市町駅 約3,000円
 庄原辻バス 460円

地形図 2万5千1:50,000

世界の地図が揃う
 地図専門店
マップラン

- 地形図 ●海外地図
- 古地図 ●道路地図
- ガイドブック

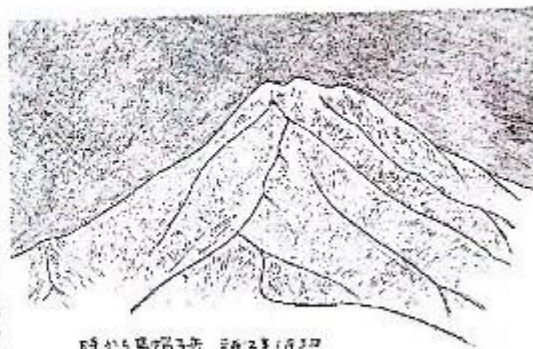
京都河原町西側、コイケのビル4F
 TEL.075(252)546

平成二年の初登山

烏帽子岳

内田嘉弘

鈴鹿



時山烏帽子岳 平成二年一月三日

平成二年度の初登山は烏帽子岳とした。昨年春に幾度かの「緑の村公園」に遊び、翌日この山に登る予定であったが、早朝から雨で中止になって登り損なった。早く片付けかけたので一ヶ月も経たない内にもう一度叶わしてしまつた。鈴鹿山脈で山名がはつきりしている山でまだ登ってないのはこの山だけである。全国で烏帽子岳、烏帽子山、烏帽子形山、烏帽子森と烏帽子と名の付く山は「コンサイス日本山名辞典」によると76山もあって、一番高い山は阿爾プスの三尖峰の東にある2704mで、いずれも山容が烏帽子に似ていることから名付けられる場合が多いとそれには驚いてある。今回登る烏帽子岳は岐阜県と三重県の県境にある山で、「日本山名

史」には「伊勢ニテハ熊坂嶺と稱ス」とある。三重県側からは熊坂岳と呼ばれたのは、街道を通行する旅人や商人から金品を奪つた怪盗、義賊とも呼ばれた熊坂長龍がこの山を隠れ居たことから来ているという。また、烏帽子岳の由来は岐阜県の上石津町から眺めるこの山容のように見えるからその名が付いたのであろう。

一月三日約東の7時半に宇治の石村さん宅に寄り、京滋バイパスから名神高速道路を北上する。天気予報は「気圧の谷が近づいてますから、午後から濃霧低気圧は雪になるでしょう」と言っていたから、昼までに頂上に着けばよいだろう。関ヶ原インターチェンジで降り、上石津町への道標に従って国道365

号線を南下、「緑の村公園」を通り過ぎ千山の手前で右折して西に進むと雪が増えてきたが、アスファルトの道は除雪されて凍かっただ。時山橋を渡つたところが登山口で道標脇の空地に車を止め身支度を整えていると小型のジーンが止まり、

「向かいの山でシシを追っかけているからお、気い付けてもらわんか危にやてよお」とと狐喧。言葉使いから名匠の人のようであ

「そちらの山には登りませんから。」と返すと安心されジーンのアクセルを踏まれた。

登山口から雪があつたからロングスパッツを付けたが、山道は樹雪20cmほどだから靴カンは付けずに登る。少しの登りで左右に通は分かれていた。どちらを渡ぶか迷つたが、左に入つて行くとその道は尾を巻くようになりカネツリ谷に沿つて登りになったが、暫くして道は消えてしまった。これはおかしいと引き返し、先程の分かれを右にとつた。これ

がルートのように時山橋へ真っ直ぐに降りてきている支路標に向かった。最初の内はゴロゴロした石の上に雪が積もっていて登り辛くルートも分かり難かつたが、支路標に依けると切り開きになる雪も締まつてラッセルも快適になった。時折向かいの山で鎮火の吠える声と鉄砲の音がこだましている。登り始めたころは雪の深さ間に足音も望めたが、今は雪が固に覆われ小骨も露い始めた。ラッセルを交代しながら主幹線に依ると正面にピークが見え、その左の二つ目のピークの奥が烏帽子岳本峰であろう。登るに従つて積雪量が多くなつてきたが、要所

の積雪が溶けてきた。眼下に牧田川周辺の村々が広がっており、木の幹に「烏帽子岳(865.1m)」と書かれた板切れが打ち付けてある。雪を掃き起して三角点を指して見ると分かんなくなつた。少し吹雪いてきたからフェルトをかぶり昼食。暖かいラーメンを暖ると体が暖かくなつて気分が華々しく、腹ごしらえを済ませ山頂でのセモノーも終えて下山にかかまり、

下りはラッセルの跡を辿るだけだったが、予報通り雪がどんだん降り出した。帰りは関ヶ原インターチェンジから名神高速道路に入つた所で大霧。正月に帰省しておられた人に桶り着いたのは夜の9時を過ぎていた。

平成二年一月三日歩く



要所の葎木の幹や枝に雪、赤、黄のビニールテープが私達を導いてくれるから、ルートファイナリングの必要はなくラッセルだけ繰り返すだけでよかった。一つ目のピークで左に折れ、二つ目のピークを越えて三つ目のピークに着いた。ここが最高点(870m)であったが、頂上らしい景観がない。しかし、先を見ると少し下り気味であったがビニールテープがまだ続いていたからそれを追って進むと先程のピークよりやや低いのが既

登りタイム

登山口9・20 切り開きの支路標10・00 後橋10・50 頂上11・50 12・20 登山口14・10

地形図

5万1:50,000 昭文社「東仙・伊吹・藤原

野外塾

●アニマル・トラッキング

二名良日

暖冬の傾向がみられますが、関西の山々でもひと冬、何度かは大雪に見舞われ、土・日などの山行日が、ちよつと降雪日と重なることが必ずあるはずですが、そんな雪の日の山歩きの際には、白銀の雄大なパノラマを見上げると同時に、足下雪上の動物の足跡にも目を向けて、「アニマル・トラッキング」を楽しんでみましょう。

たとえどんな暖冬でも、野性の動物たちは体ひとつで厳しい冬の季節をサバイバルしなければなりません。彼らの食料である木の葉がみるみる秋になると、食欲なまでの食いだめ。行動を始めるのもそのためです。降雪が早まったりすると、もう大雪。ブルドーザーやラッセル車のように、雪をかき分け、木の实獲しに懸命です。

このようにケモノたちにとって、雪のハンディは大変なものなのですが、観察者や狩猟者としての人間にとっては、雪上を歩くためのスキーやカンジキをつければ、夏はフシユヤフシで分けることが困難な山奥にまで、簡単にどんどん入って行けます。

全山をおおいつくした雪の上に、動物たちの生態の行跡である足跡などが、クッキリと現われるため、冬の季節が、アニマル・トラッキングのベスト・シーズンといわれます。

それでは、このように動物の行跡を手がかりにしながら、その行動や生態を観察し、動物や人間の住む自然全体を大きく考えていくこととする、新しい冬のアウトドア・スポーツ「ウォッチング」の、具体的なチェック・ポイントを考えてみましょう。

〔足跡〕の発見が、先ずその第一歩です。動物たちは固有の足形や歩様と、独特の行動の習性を持っており、そのフット・プリントから、種類を推測し、行動状況のドラマを想像するのは楽しいものです。

〔フン〕もまた、証拠価値は絶大です。鳥のペレットから食べた魚などを判別するようには、内蔵や糞や場所などから、種別は勿論、冬の山野での群らしぶりや、木の葉や自然の状況、行動範囲や縄張りまでもが類推できます。

〔ウロ〕と呼ばれる木の洞には、ツキノワグマなどが冬眠したりしますが、根穴・岩穴・土穴など、住居・寝場所も、数少ない重要な観察ポイントです。穴の位置や大きさから住人を特定し、詳細を想像してみましょう。

〔カガリ〕という爪痕を、冬眠の穴の周辺につけ目印にするツキノワグマですが、実に巧妙にカムフラージュするので、知恵くらべをしてみましょう。

〔サイン・ポスト〕といわれる、この種の細張りマリークや、放尿・脱糞・脱音腺液などの主要目録、クマの背こすり・皮はぎマリーキングなども、貴重な発見です。

〔ディアー・ライン〕とは、シカの摂食痕ですが、ウサギがクロモジの皮を咀嚼してカジったり、サルがカエデやブナの枝元を食った

りした痕跡も、注意すれば見つけられます。〔ハンドリング〕で、リスが木の葉をカジッたり、カラを割ったり、穴をあけたりした食べ跡も、雪上ではとても目立ちます。

このようにいろいろなおサインがあります。が、単純でおもしろいのは、ズバリ足跡追跡



〔ウサギ〕は大小二種ずつの四つの細長い足跡で、小が前脚、大が後脚ですが、跳ぶと後が前に出ます。行った道をまた繰り返り、果の近くでイン跳ねをしてかく乱します。

〔リス〕もウサギ同様、二種四つの足跡ですが、小さくて先が割れ、木の下で潜えます。跳んだ踏み込みの深さで方向がわかります。

〔キツネ〕は犬のようにスピーディに、四つ足を指して、人車に接近します。

〔テン〕は肉食で、体は小さいのにキツネより少し大きいです。川の飛び石や倒木の上の小さな鋭い足跡は、敏しようなテンでしょう。

〔タヌキ〕はキツネと類似的に、梅花を思わせる足跡がフラフラした感じで、山小屋のゴミ捨て場をワロワロしています。

〔カモシカ〕はシカのヒメメにそっくりですが、険しい崖を平気で登れるので、山頂の岩場のそれは、カモシカに間違いないでしょう。

〔ツキノワグマ〕には春に冬眠しないものもいるようですが、日本では雄大級の足跡なのでわかりやすいですが、足跡の上を逆戻りする利巧なやつもいるように論議です。

「アニマル・トラッキング」(今泉兼光、自由園理社)、「アニマル・トラッキング」(渡辺哲也、山と溪谷社)も読んでみましょう。

初春山行にふさわしい

千歳山から鎌ヶ岳へ

丹波

遊津米男

当日は初春山行にふさわしい快晴に恵まれる。血闘盆垣も車窓から見ることが多い霧がかかるとなくして青空を覗かせている。

本午飯会の前送洋々たるものを感ずる。定時隣野郎八木駅に到着。備置、つわもの揃い経参加12名が無く。早速タクシーに分乗し、一路登山基地千歳山のふもと、神吉(下区)へと快進する。お、その20分程で到着。

今日の千歳山への登山コースは、7、8年前と異なり西寄り起原コースで出発する。奥落の関を抜け、杉植林帯の中の山道をたどる。ゴミひとつ落ちていない気持ちのよい山道だ。右に祠を見逃さず登る。登るに従って松林地帯に入る。まさに「千歳山」の名にふさわしい景観だ。

広葉苑を越くと千歳山の急は松の多い山の終極とある。その通りである。やがて予想しなかつた急登にかなり暗き暗き登る。途中で小休止した後、急登にあえぎ休憩、やつの思いで後縁に染る。

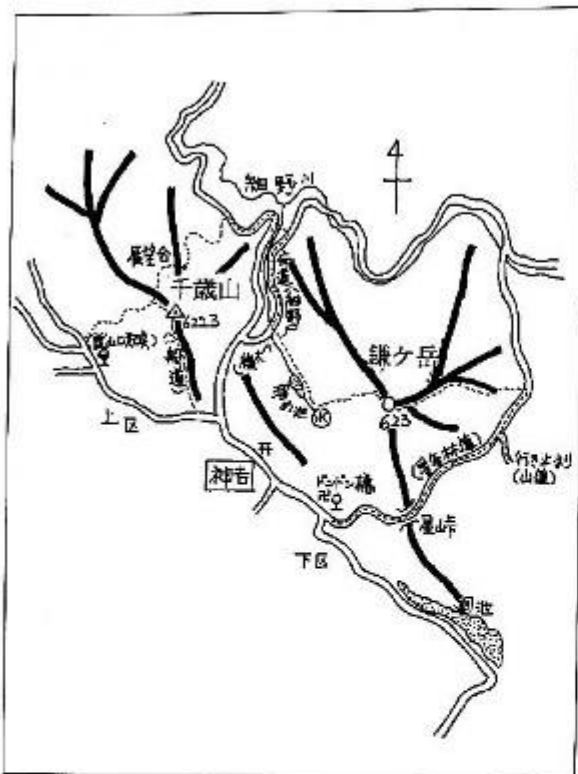
後縁を東に向かって灌木・雑木林帯を進行。山頂周辺の熊笹地帯は昨夜降った雪がしっかりと積もり我々の行く手を遮る格好だ。強引に熊笹帯を突破して、再び杉植林地帯に突入する。地図で見ると千歳山の山頂は3つのコブからなる。まず三角点探しに杉植林地帯を右に左にする。地図上では三角点千歳山の東南方向に位置しているの、素直にその方向へと進む。すると正面登山道の登りきった際に三等三角点が立っていた。

足絆と小屋掛けの休憩所



我々は相対面して到着したようだ。ここで全員三角点でタツテして小休止。杉植林地帯の外側は口途草端な積雪の上だ。重たい靴を脱ぎ足踏むこともなく、道にかえって難儀なことだ。予定コースを通るとなると途中に踏み入る工合になるので、今日は敢えて山を避け、未だ植林地帯をすこし後戻りしてから北東へ山道をこる。里山は枝道が多く迷いやすいが茶店に山道を進む。

そのうちに展望台に着いた。ここからは驚きの衣を着た勇壮な千歳山を中心としたすばらしい雄大なパノラマの展望が広がり、思はず分我々を楽しませてくれる。眼前にはいまから登る鎌ヶ岳が早くおいでと囁んでいるようだ。眺望を満喫して山道を進む。そのうちだ。



雪も消え、同時に山道も完全に消えうせる。どうにもならない。いつか谷をめぐって急降下と相成る。この付近で先頭の子をベテラン相とはぐれる始末。私は後尾を引つ返って積雪に未踏の谷を下る。やがて植林地帯に出てコースを右へ右へと急登をこして進む、ついに

府道に飛び出す。地図で現在地を確認すると千歳山の真北に出たことになり予定タイムより1時間余遊んだ結果となる。後尾もがんばって先頭組になんとか合流する。やがて左下の川沿いに細針からの急登が見えたので離れようとなしにガードレールを降りていっきに植林地帯の急斜面を降りて対岸の府道へと戻る。足も疲れていたので、河原の浅滩地で息をタイムとする。約一時間余の深しい雨もアツという間に過ぎ、対岸の府道に出て、略雑ヶ岳へと歩を進める。麓の山歩きは、非常にこたえるが予定通り鎌ヶ岳山頂を目指す。真い温泉を府道を通り越して、やっと地道の林道に入る。右に静かな大きな溜め池を見過し、林道はジグザクに徐々に高さを上げる。いたるところに林道の開闢が進む往年の姿を留めているところは少ない。かろうじて水溜みだけが名残りを留めている。ここで午飯最初の小休止をして後、いよいよ鎌ヶ岳への登山にかかる。この山道も感だれも入っていないらしい荒れ放題の状況だ。

そのうちに千歳山同様に山道が消えうせる有様。後尾は手近に届くことができるので、マッシュの直登に全員敢然と挑戦をしかける。午後の直登は相当こたえるがこれも訓練とい

うことになってがんばる。30分程の悪戦苦闘でやっと稜線に飛び出す。稜線上は雪解け真っ最中で灌木・雑木林帯に触れるだけで、ボク雪を頭からかぶる。全員登頂したところで一息入れて鎌ヶ岳へと進む。おそろく少々先で到着するはずと心算して進む。出発もななく灌木・雑木林帯の中にケルンを登った山頂に着いた。三角点もなく、展望も得られないので即、山頂を後にする。

稜い稜線上を樹々をはらいながら南進する。またまたここで間違ったのか稜線はブツブツと切れて落ち込んでいく。今夜は午後5時もあるまで朝のような失敗は許されない。勇気を出して少々バックする。案の定南西に延びる稜線に乗る。途中から朝の千歳山の展望台から望んだと同じ景色を再現して我々を乗しませてくれる。休憩ごとなくどんどんと進む。またまた山道があやふやになってくる。またしても後追が遅れがちになるので急ぎ足で前に詰めようとしてハツバをかけながら進む。そうこうしている間にいつか稜線の道を失う、という上り又法が消えてしまう。コンパスと地図で再確認する。南西に乗る稜線上より南の稜線上にいるようだ。南西に延びる稜線はるか向こうに眺望出来るが、いまさらバックもままならず、ずるすると杉植林

地帯を降下した。すると下方に開発途上の林道が見える。仕方なく全員林道上に飛び出し西方面へ進む。すると林道三岔路になっていく。ここは今日最大の患所。南進の舗装林道を突破していくことで進む。すると案じていた通り4000×5000円で舗装林道はブツブツと切れ山で行き止まり。今一度断点に戻って、今度は右に延びる通称「星谷林道」をつめることに決断する。

コンパスで確認すると間違ひなく西方面に向かっている。自信は持てるがしかし半信半疑で、時に進み寄くことを祈りつつ果敢林道の急坂を断けるがごとく前進する。途中高圧線の下をくぐりなおも急坂を登って行くと、心配していた山につきあたるとなる気配もなくなり、前方が明るく開けてきた。「峠」に飛び出すことになり合います。峠を越すと、峠上に往年の「星谷」のシンボル、小籠餅の休憩所が建っているのを見る。幻の「星谷」を現実目のあたりにして、ひと安心する。曲がりなりにも予定コースを踏破出来た喜びをみんな分かち合う。

最終地点のドンドン橋へと急ぎ足で下る。皆さんの足取りも軽やかに聞かせる。全員無事に到着。40分待たず、17時38分発八木駅行きバスに乗車。車中で日没になり、スリリン

グで有難いな初登山行を終えた。
平成30年1月14日歩く

参考タイム

- 1 八木駅 9:42
- 2 八木駅 9:43
- 3 タクシ
- 4 1 八木駅 9:15
- 5 9:25
- 6 千歳山西尾根上部 9:45
- 7 千歳山三角点 10:25
- 8 10:35
- 9 千歳山北東尾根展望台 10:50
- 10 11:00
- 11 府道に合流 12:00
- 12 湘野川河原 12:30
- 13 (昼食)
- 14 13:40
- 15 鎌ヶ岳登山口 水場 14:10
- 16 14:20
- 17 鎌ヶ岳主稜線 14:50
- 18 鎌ヶ岳 15:00
- 19 星峠 16:30
- 20 16:40
- 21 ドンドン橋 17:00
- 22 17:38
- 23 発バス 八木駅 18:00
- 24 18:09
- 25 発 京都駅 19:00 (車中解散)

地形図 2万5千 駿田
昭文社 二京部北山1

○歩いたコースは一般的な登山道ではない。山道ややぶ帯も多いため、読図力のある健脚者向き。千歳山への正面登山道は地形図を参照して下さい。鎌ヶ岳は一坂向き登山コースではない。
○八木駅 神吉間のバス便は本誌1号バス時刻(京都北山)を参照。
△問い合わせ先
京都交通バス 075(541)0181

能勢妙見宮

天台山から妙見山

安田憲弘

北摂

「能勢の妙見さん」し、人びとが親しみをこめてこう呼ぶとき、それは、能勢妙見宮のことである。そして「能勢の妙見さん」は、妙見山(660・1m)の山頂にある。
妙見山は数多い。「コンサイス日本山名辞典」(三省堂)には16山が載っている。これらは、「厄難よけの妙見菩薩を祀る山につけられたものが多い」とのこと。妙見菩薩は、北斗七星を神格化したもので、主として巨漣宗で崇拝される。
能勢妙見宮は、天正年間(1573～1582)に領主の能勢頼次が妙見城の守護神としたことから始まる。江戸時代になると、厄難よけの妙見信仰が広まって参詣者が多くなった。日蓮宗では、身延山に次ぐ関西唯一の霊場だ

ある。
さて、ぼくが所属する「いこいの山岳会」では、平成3年の初例会にこの妙見山を選んだ。A班「天台山コース」、B班「杉畑根コース」、C班「バスで山頂まで直行の」老休協、能勢妙見宮の集山登山である。
天台山コース
阪神方面から妙見山に登るとき、道中は能勢電鉄妙見線の終点妙見口が起点になる。妙見口からはさまざまにコースを選びうるが、東側の天台山をへる登るコースはもっとも道回りがよいコースである。
妙見口から南へ、間もなく広い車道から離れて左へ。この辺りの田舎は結構だが、どの

妙見宮の表参道



道を進んでも方向さえ間違わなければ、やがて東と西の台の住宅群を右に見る高台へと登っていく。そこには、天台山への入り口を示す道標があり、左の山道へ入るとそこから先は一本道となる。
低い松と雑木のまじり、明るい崖根道をたどる。形勢はほとんどない。道は次第に高度をあげていき、それと分かる天台山の急谷にかかると、涸根の断崖を右へたどれば、天台山



妙見山の山頂

スで直線の3コース。歩き足りないひとほもうひとつ高代寺山へ登って帰れ」というわけで、このコースのリーダーを仰せつかる。約50名の多勢である。

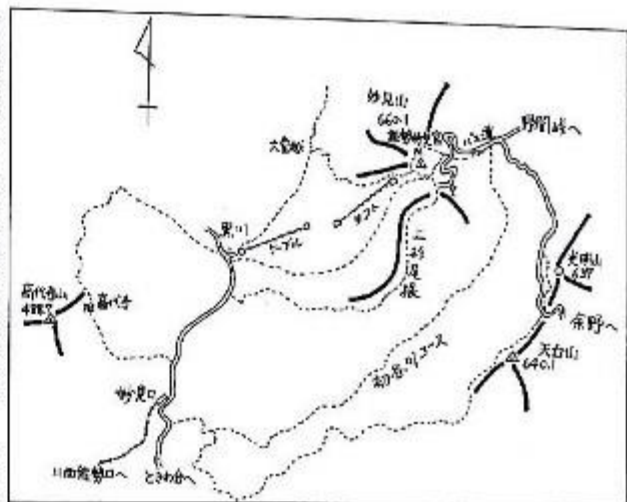
山頂からケーブル山上駅の方へ進む。尾根の切り開きを右に入り、すこし進むと左の茂みへくだる道がある。大袈裟までは、よく踏まれた一本道である。急坂をくだった所の鞍部が大袈裟。ここから南へくだればよいのだ

が、入り口が分かりにくくなっているから要注意。ケーブルとリフトを乗り継いで上がるひとが多いから、この道はほとんど利用されていない様だ。荒れた道を注意しながら道なりにたどれば、ケーブルの黒川駅になる。

高代寺山へ
ケーブル前から西へ、細い車道を進む。左手に小学校の校舎を見るところから左の山道へ。落葉の散り敷い、しつかりした道だ。尾根まで開かれたゴルフ場に近づくころから、手元の登山地図(宗谷支社)と現地の道とが大きく違ってきた。立派な車道がつくられ、さらに延長工事が進められている様子。方向をさだめて左へ、それらしい山道へはいる。なんと高代寺へたどりついた。山頂はもうすこし上がったが、登路もないし、本日はここまですすめる。

高代寺は、高野山に代わる寺として建立されたという。かつては、女人禁地として、37棟の堂院、12の坊院がこの付近にあったというが、いまは小さなお堂だけ。

下山路を、近くの人らしいファミリーハイクの奥さんに聞く、「その先の水飲み場から、急な階段をくだれば……」旧道の入り口を教えて貰えば、車道を歩くはめになるところ



の山頂だが、ハイキング道は左へ山頂を巻いていく。今回は、妙見山頂への集合時刻が気になるリーダーの判断で、天台山への登頂はカット。

(天台山の山頂は、ヒノキの植林の中に64

妙見山頂には、本堂の「開運殿」を中心に、礼拝所、社務所、休憩所、飯場、みやげもの店などが並び、いつも賑わっている。小さな郵便局まであって、ここでスタンプを押すのも人気とか。山門の柱に掛けられた大観の温度計は、マイナス程度を示している。

妙見山頂

0・1の3等三角点標高がほとんどあるだけで、展望は得られない。もとのハイキング道へ戻る。

天台山から北東へ一気にくだると、立派な車道になる。車道歩きは面白くないので、右手の光畑山(639m)の山腹の旧道をたどる。ホサを分け、倒木を踏み越えて進むが、やがてまた左の車道に合流する。旧道をたどれるのは、せいぜい数百メートルのうちに完全に車道になっていきそう。

車道を進んで、バス道に合流すると左へ、すぐに左の尾根へ登っていく旧道の入口がある。ここからは急登となるが、山頂はもう近い。やがて大袈裟をくぐって、妙見宮の境内へ入っていく。

大袈裟コース

た。風のないおだやかな冬の日なので、さほどの寒さは感じない。

本堂の山頂は、もうすこし上である。南側の正面参詣道の石段の途中から右へ、芝の道を少し登ると山頂の広場。妙見宮の賑わいがうそのやうに、いつも静かな山頂である。

そこには、ひとつの碑が建っている。裏へ回ると、「明治27年(1894年)日清戦争、明治29年(1896年)日露戦争の戦死者のための供養碑」であることが読みとれる。碑の後ろに、660・1の4等三角点標高がある。ブナの古木にかまされて、ひっそりと立っている。

「妙見山に登ってくださるたくさんの方のうちに、いったい何人がこの三角点標高に注意をはらうだろうか……」ここに立つときいつもそう思う。

山頂付近のブナの古木は見事なものである。樹齢約700年(800年)のブナ400本ほどからなるブナ林は、「大阪府指定天然記念物」となっている。600以上の温度の標高計を自作するブナとしては南限にあたるといふ。

さて、くだりはA班(大袈裟から黒川へくだり、さらに高代寺山をへて妙見口へ。B班(初狩谷川をくだって妙見口へ。C班(バ

であった。

薄暗い竹やぶのなかを通り抜けるよ、ぱつと視界が開ける。かたわらには、由緒のありそうな石の地蔵など。この路がかつての参詣路だったことを教えてくれる。

道なりにくだって車道へでは、今朝の出发点・妙見口駅はすぐそこである。

(昭和22年3月1日、平成3年1月6日、10月5日歩く。平成3年1月6日の記録)

〈コースタイム〉

梅田(阪急)・急行22分→川西能勢口(能勢電鉄)25分→妙見口(1時間30分)→天台山(1時間20分)→妙見山(宗谷)大袈裟(30分)→黒川(20分)→学校前(40分)→高代寺(20分)→妙見口

(費用)

梅田→川西能勢口 210円
川西能勢口→妙見口 2000円
(地形図) 20万(京都及大阪)
5万(広葉)
2万5千(妙見山) 広葉

美杉村杉平から

岳の洞へ

たまには結廬の外へ出てみるかと、三重県一志郡美杉村杉平の岳の洞に出かける。メンバーは、十五五にして字に志しかけている6名の若者く、まだまだ迷いに迷っている不惑半ばの、自称青年2名の8名である。

登山口の杉平へは、JR名松線の終点伊勢奥津からバスを使うか、近鉄名張駅からのバスを利用するかすれればいいわけだが、ロス時間を考慮してマイカーとする。午前9時、2台の車に分乗して、近鉄久居駅を出発。川合高岡駅を経て、名松線と雲出川に沿う、県道15号線を進む。伊勢大井駅あたりからの布引山脈の眺めがすばらしい。少し寒寒と、しかしゆつたりとした田園風景の中を、道はまっすぐ延びている。この辺り、寿司米として

稲垣 いつを

台高

有名な一志米の産地帯である。白山町川口を過ぎ、9時20分、白山町家城に入る。家城駅、県立白山高校、県立一志病院等のある、小ぢんまりと落ち着いた町だ。家城を抜けると間もなく、美杉村竹原に入るが、この辺り、雲出川沿いでも特に景色のいい、家城ラインと呼ばれている所だ。道は竹原駅の手前で二分に分かれる。左は若狭野々田、八手俣川沿いの多気、北島神社方面。右は雲出川沿いの奥津方面である。数年前に、北島神社と奥津を結ぶ車道が開通したので、どちらの道をとってもいいが、やはり近頃の右の道をとる。踏切をまたぎ、雲出川を渡る。カーブが多いので安全運転に徹する。川を左に7、8分走ると八知。八知駅を過ぎて程なく、左折

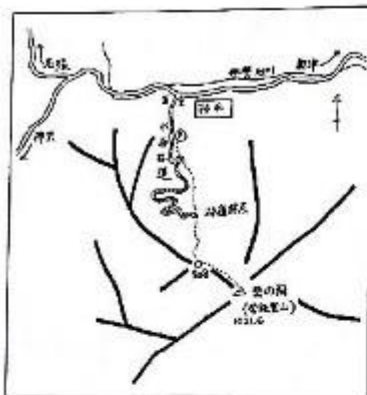
岳の洞から高見山方面を望む



して雲出川を渡る。更に5、6分走ると名松線の終点、伊勢奥津である。駅を過ぎて程なく左手に橋が見えてくる。橋を渡れば雲出川沿い、川上、若狭八幡宮方面。直進すれば、伊勢北川沿い、奈良原村村長杉平名張方面である。登山口杉平は直進わずか2、3分である。

杉平バス停10時着。久居駅から1度1時間、少しとはし過ぎたかも知れない。バス停手前

の橋を渡れば、桜で名高い三多気経田大洞山方面。岳の洞へは、バス停を過ぎてすぐの角を左折して、水谷林道に入る。左第三に、栄山寺。美杉村公民館杉平分館がある。そこに居合わせたおじさんに道を尋ねる。まちがいないこの道である。林道終点まで約2km。終点には小さな広場があり、駐車可能だという。しかし、山に登りに来たのだからと、公民館から200、300m奥の林道に車を置く。登山靴に履き替えいざ出発。10時20分である。林道を2、3分登り、左手の登山道に入る。杉林の中の平坦な道を少し行くと、青緑々畑でもあったのかと思われ、右横溝があらわれる。笠懸堂山・雑草山・友雲山という村



ちかけた標識のある角を右にとって、甚なお暗い杉林の中の急坂にとりつく。巨樹り山行となると、わが山岳部の若者諸君は、どういうわけかやたらと元氣。空身同然のナブザックでは、すぐに水をあけられてしまう。そんなに急いでどこへ行くんやと、自称青年2人は上たよた後を追いかける始末。汗をたらたら流しながら、林道終点の広場に着く。10時50分だ。元氣組の6名は蒸しい顔で「ニヤニヤしている。こちらも涼しい顔で応えてやろう」と思っが、そうもいかない。足元には5、6センチもありそうな露柱が立っているというのに汗がなかなか止まらない。なんとという為体、広場には車が1台とまっている。

「裏の花 踏みしだかれて、色あたらし。この山道を行きし人あり」 遥空の旅を思いながら、広場からのとつきを採す。左正面奥の露柱が踏みしだかれていたので、それとなく分かるがややわかりにくい入口だ。充分休んで出発。相変わらず左側をお暗き杉林。次第に傾斜もきつく、ヒュー、ヒュー、ゼーゼー。つまり左の割れ沢におっこちそう。さすがの元氣組も、少々息が切れてきた様子。しめしめである。それにしても、その名に恥じない、美杉村の見事なこの杉林はさすがである。この辺り、胸突き八丁が、なかなかきついが、

館内より日本カモシカ毎日20頭以上と、北アの雪形観察、北ア全山の大眺望の湯、春は山菜等

展覧岩風呂・露天風呂

あるぶすいん 満山荘

〒382 長野県上高井郡
高山村山田牧場・奥山田温泉
電 0262-4212527

あなたのふる里になりたい
スキー場まで歩いて1分

白馬ファミリーペンション

和田 森

〒399-93 長野県北安曇郡
白馬村八方和田野
電 0261-7215351



岳の洞から大洞山、尾ヶ岳を望む

この美林があるからこの道に登れる。なんだ坂こんな坂。と暗えながら、まるで暗闇腹で登る。しかし何事にも終りはあるもの。11時25分、やっと稜線にでる。左折して東に向かう。進むにつれて雪が目立ち始める。雪が多く道幅狭く歩きにくい。雪が気分をルンルンさせる。道はゆるくカーブして南に向かう。軽く下り、また若い楡林を抜け、昔の低い雑木林をよぶこぎ風に少し登ると、いきなりそ

こが、岳の洞の頂上である。11時45分だ。途中、一度も頂上を確認できなかっただけに、一気に開けたこの展望には少なからず驚かされる。手持ちの国土地理院、5万分の1地形図には、「1021.6」とは記されているが、山の名前は記されていない。
さっきの車の持ち主が、30分前後の自給ではない青年が1人、三脚を掲げて、向こうの山と対峙している。北の大洞山、北西の倶利伽羅山、南の三峰山、どこをとっても絵になるが、三峰山から高見山にかけての稜線が特にすばらしい。恐らく樹氷であろうきらめきが、遠くかすかに確認できる。若者たちも、双眼鏡を回しながら暫し無言である。近くの灌木にわずかに樹氷が見られる。風を避けてブッシュマンになって、にぎり飯をほおぼる。紅茶を沸し、ウイスキーを数滴。雲が走り、空気がじりりと澄んでいる。日が澄しかり陸つたり、絶好とは言えないまでもまずまずの天候。岳の洞は、頂上に立ってはいじめてその苦勞が報われるという、そんな山だった。
12時30分下山。林道終点13時05分。そのまま林道を下り、東着13時35分。一休みして、杉平バス停14時45分。今後の為にバスの時刻をメモし懐中時計につく。ところが、相棒の不惑氏曰く、「まだ早き故、いま一つ登りてゆかん

や」と。若者たちのキョットした顔。「ああ、またいつもの癖が出た」とそれぞれの目が言っている。しかし期待の色も少しはある。決定である。奥海から、新しく出来た道を北岳神社に抜け、神社の裏の霧山城跡に向かう。ここは、標高6000の山上に築かれた北岳氏の本城跡である。神社が、14時。霧山城跡14時30分。鐘堂空疎、米倉蔵、本丸蔵、矢倉蔵、それぞれに案内板が立っている。松風さわく丘の上、古城さびとり何しのお、不惑の一人が歌い出す。松の蔭蔭が、なぜかあたたかく、よく整備された高台は、今や明るい思いの場となっている。疲れている割には、ハイペースで、15時05分神社に戻る。あとは下之川、君ヶ野夕ヶ野由竹原に出て、朝来た道を帰るだけである。しかし恐らく、「リンクサイト君ヶ野」が見えて来たら、誰かがきつと言いつただろう。「まだ少し早き故、コーヒーなどたしなみていかんや」と。
平成元年1月21日(冬)

新ハイキング選書

【第1巻】

西上州の山と峠 佐藤 節 著

★再版発売中ノ 定価1648円(税込)

【第2巻】

富士の見える山 小林経雄 著

★三版発売中ノ 定価1648円(税込)

【第3巻】

漂泊の山旅 佐藤 節 著

★好評発売中ノ 定価1648円(税込)

【第6巻】

花の山を行く 松本雪枝 著

★好評発売中ノ 定価1650円(税込)

【第7巻】

山旅素描 足立真一郎画伯 著

★増刷発売中ノ 定価1648円(税込)

【第9巻】

一等三角点の名山100 沢 聰 著

★品切れ 定価1650円(税込)

【第10巻】

四季の山 沢 聰 著

★新刊・好評発売中ノ 定価1650円(税込)

【第11巻】

いで湯浴泉記 大石真人 著

★最新刊・好評発売中ノ 定価1700円(税込)

●振替でのご注文は 発行所 新ハイキング社 振替東京1-149815
送料当社負担 東京都北区滝野川 7-6-13 電話(03)3915-8110

京都北山 (二) 高雄・清滝・愛宕山周辺の山

新雪を踏んで冬の日溜りコース

北川 裕久

新春の北山を紹介するにあたり一般的なコースで、しかも積雪量が少なく歩き易い地域を考えると、北山西部の愛宕山周辺の山々を紹介することにしよう。

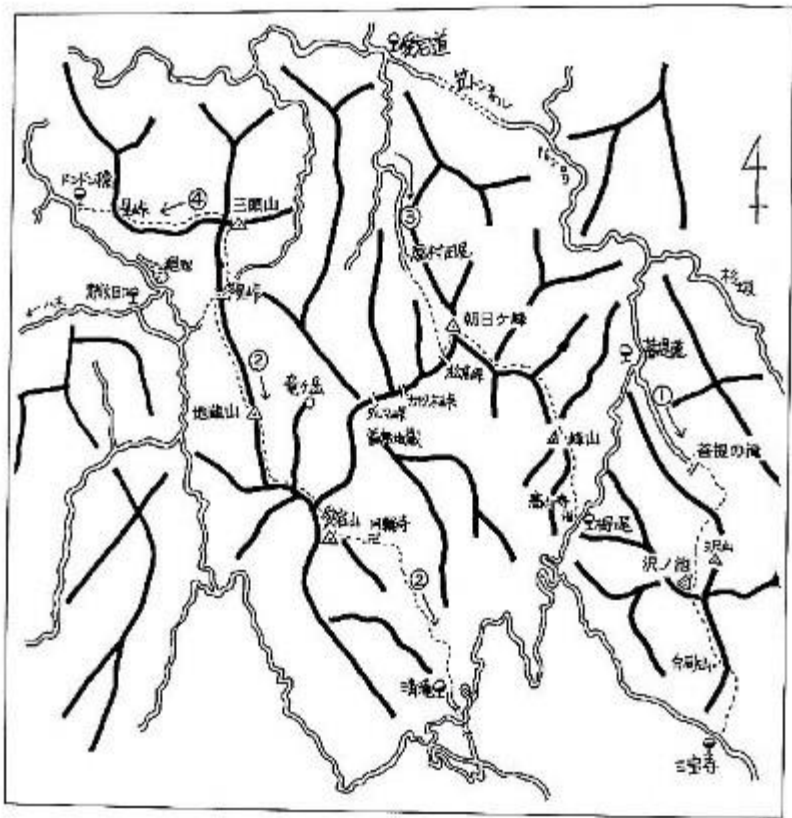
先ず、愛宕山といえば、防火、鎮火の神々を祀る神社が山頂にあり、「あたご」との名称で京都の人々に親しまれている。愛宕山には無数の登山コースが開かれ、もともとよく知られる清滝からの表参道を男坂と呼び、水尾からの道を女坂と呼んで親しまれているようだ。周辺の集落には愛宕石燈籠があり、愛宕神社の分霊を祀るもので、信仰の厚さを物語っている。

表参道の起点である清滝は、今でこそバスで入れるが昔は試峠(現在のトネルの

上)を越えて清滝へ着いたものだった。今は料亭や民芸館が並びハイカーや観光客で賑わっている。清滝川に沿って東海自然歩道が開かれ、保津峡への道を金鈴峡と呼び、高雄へ廻る道を鐘巻峠と呼んでいる。

高雄には三尾、高尾、横尾、梅尾の名刺として袖蓑寺、西明寺、高山寺がある。何れも紅葉の名所として全国的に有名であるが、冬の静寂を味わうこの時季も又、良いものである。さらに清滝川を北上すると北山杉で有名な中山、杉坂、小野郷に着く。ここは山崎慶成の小説「三郎」の舞台になった所で北山杉の美しさは言うまでもない。

北山杉とは、柴原杉といふ品種で、苗木は親木の素質を伝えるためにさし木でつくり、



丸太を削ぐ女達(中川)



節のない材を得るため数年で最初の枝打ちを行なう。床柱にある裏面の凸凹は、絞りといい、天然物ではまず出来ないためプラスチックの棒を伐採する年の幹に巻きつける人工絞りが考え出されたのである。伐採後はその場で荒皮を剥ぎ、一週間太陽下で乾燥させる。作業場では湿度を取るこむき作業を行ない、最後に乾き作業に入る。近くの喜徳の流で取れる良質の石炭質を含まない粘土のような砂で、女達によって磨き上げられるのである。以上が床柱をつくるおまかな行程であるが、何故ここに北山杉というものがあるのか。そ

れはこの周辺の厳しい環境にあり、水田を開くことができないこの土地では、生活の糧に林業しかなく、小さくて高く売れるもの、つまり床柱に目を付けた。室町から桃山時代にかけて表参道の普及とともに北山杉の発展があったといえる。

小野郷からさらに北上すると「表参道」というバス停があり、ここからも愛宕山への道が開かれている。愛宕山の北側を基岩谷と呼び、竜ヶ岳や地蔵山、三上山、雄ヶ岳と、松林のある独特な山城を構成している。これらの登山口となる地蔵や雄ヶ岳は、これら愛宕山信仰が強く、参拝道として開かれた道がいくつが残されている。雄滝は距離400m以内、平安中期に山腹を走り開いてつくられた村で、総田と呼ばれる独特の田圃風景が印象的だ。総田は四方を山に囲まれた小盆地で、ここも又田圃風景の美しい穏やかな山村である。

ともあれ北山西部を形成する愛宕山系は、北山というよりも西丹波の山々の個性が強く、松林の多いことがその証明でもあり、積雪量の少ないことから、この季節に一足助けて頂きたい。北山西部の山城として、一般的な4コースを遊んだ。冬の日、日溜りを求めてのんびりと歩いて頂きたい。

(調査) 平成3年7月18日

エリア別徹底研究

高雄 清滝・愛宕山周辺の山①

庭園と景観の ファミリールコース 菩提ノ滝と 沢ノ池

京都北山



JRバス「菩提道」から少し戻り、道標に従って菩提川に沿った穏やかな林道を登る。

周辺は北山杉に囲まれた静かな道で、杉の幹に人工絞りのプラスチック模様が鮮やかだ。1・5km程歩くと林道の両側から岩の張り出した所に着く。岩の隙から谷へ下ると菩提ノ滝がある。10m程の直線で左側の岩壁に不動明王が祭られている。

さらに林道を1km歩くと崖畔との分岐に着き、右を取って少し行くと今度は三方に分岐する。真中の道登ってゆくと、左側から上の水跡からの山道が全流し、松の木が目につくともまもなく沢ノ池に着く。標高400mのこの池は江戸時代に造られた。宇多野方面の田圃を潤す灌漑用の人造池で、フナ・コイ・バス・ブルーギル等の魚類が生息している。沢ノ池から南へ500mほど林道は尽き、雑木林を登ると仏栗峠に着く。右を取れば掃ヶ谷を横ノ尾へ。余裕があれば北山往復を諦める。北東の雑木林の尾根をとり、少し下った所の分岐を左へ、松と雑木の混合する尾根道を10分余りでピークに着く。真北に下った鞍部で道は三方に分岐するが、そのまま北へ登ると沢山の山頂である。露草はないが、静かな山頂でのんびりと休憩できる。帰路は往路を引き返すが道が交錯しているので注意しよう。

う。仏栗峠から南の尾根を下る。左に桃山への道が分岐し、雨の浸食作用によってできた堀れ込んだ山道を下る。やがて前方が開け、岩場の展望台に着く。白砂山のピークを前景に京都市街が一掃できる。このコースのメインポイントである。ここは20年前前に山火事で高い木が焼失したため展望地となった。

さらに緩やかな尾根道を下ると谷の源頭で道は分岐する。ここにヤマザクラの木がある。谷道と尾根道は同じ所に出るがコースは対岸の尾根を辿り込んで檜林を下ると林道に出合ふ。民家の間を抜け尾道に出て左折すると三宮寺のバス停がある。(北川 裕久)

コースタイム

菩提道バス停 (30分) 菩提ノ滝 (20分) 沢ノ池 (10分) 仏栗峠 (20分) 沢山 (15分) 仏栗峠 (40分) 谷の源頭分岐 (30分) 三宮寺バス停

地形図 2万五千—京都西北部

交通機関

JRバス・京都駅前から「周山」行
ワンポイントアドバイス

※子供連れハイカーは、仏栗峠から横ノ尾へ下るコースか、沢ノ池から引き返し、上の水跡を横断へ下るコースが望ましい。又、沢山往復は不可。

エリア別徹底研究

高雄 清滝・愛宕山周辺の山②

広大な笹原のある峰 地蔵山

京都北山



京都交通バス「菩提道」より檜畑の集落を抜け、三差路から民家の横を登ってゆくと杉林に入り、廻り田舎を見下ろしながら岩見峠まで約10分くらいである。南東の尾根を少し登ると小風があり、松林を登ると道は急坂をなして薄木帯の中を登る。熊笹が現れ、さらに登ると二基のマイクログリーン反射板があり、その西側に「西向宝蔵地蔵尊」が背を向けている。ここから地蔵山を降って地蔵の辻付近まで腰から背丈を越える絶世の海を泳ぐようになる。この先の円峰が地蔵山の山頂である。山頂の展望は冬期に西側の嵐間方面から丹波島原部の山々が幾重にも重なり美しい景観である。北山では唯一の一等三角点が置かれていた。一度下ってピークロープに登ると再びマイクログリーン反射板がある。ここから見る地蔵山は小さい円峰で、それとは対照的に南方に見える愛宕山は雄大な姿で、雄大な竜ヶ岳の尾根の向こうに雲霧ある山姿を見せている。さらに背丈を越える絶世の海中、南尾根を上り下りをくり返す。道は絶世の下にはつきりとしていたので迷うことはない。特に冬期は歩き易い。ピークロープから30分、愛宕神社への林道に飛び出す。

地蔵の辻まで美しい檜林や雑木林を眺めながら歩く。愛宕山の三角点は地蔵の辻から一

本手前の道を左へ入り登った所にある。地蔵の辻をやり過ごし、愛宕神社への少し手前で巨輪寺へ下る細い道が左側に分岐する。

途中の大岩から京都市街の展望が楽しめる。つづら折れを下ると巨輪寺に着く。嵐間部原の展望で重文の仏像を安置した本物殿があり、境内には須賀上人手植えの、しぐれ桜があり、九条孝泰公が親筆に人に別れを告げるとき、悲しんでサクラが時雨のように散ったと伝えられている。さらに杉林のつづら折れを下ると愛宕川沿いの林道に出合ふ。大杉谷には空母池があり、往復15分の行程である。清滝へは愛宕川に沿って30分ほど歩けばよい。

コースタイム 北川 裕久

越前バス停 (40分) 若見峠 (1時間30分) 地蔵山 (1時間20分) 地蔵の辻 (50分) 巨輪寺 (40分) 愛宕川出合 (30分) 渡瀬バス停

地形図 2万五千—京都西北部・亀岡・鞍田

交通機関

京都交通バス・JR八木駅から「神宮」・「原」行

京都バス・清滝から「京都駅」・「三条京阪」行

※越前を起点にしたのは行程表を考えた。海拔400mの越前から947mの地蔵山へ約500mの標高差を考慮したため、この程が清滝から登るより楽である。

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

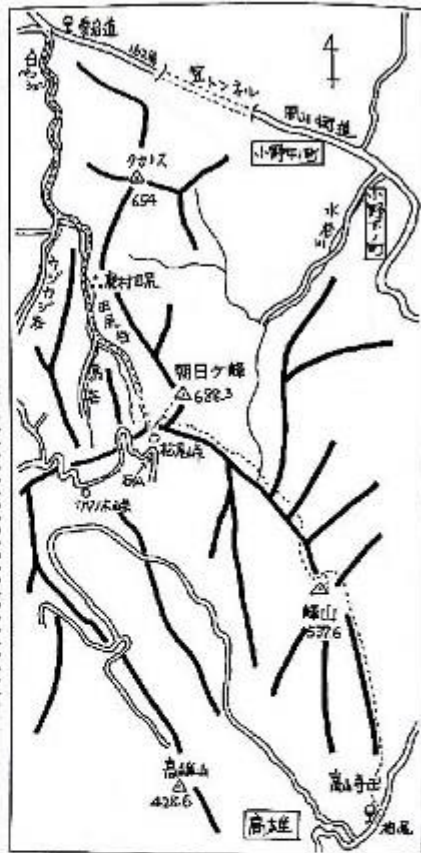
- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 北アルプス絶頂 | 34 新羅山 |
| 2 白馬岳 | 35 朝日・出羽三山 |
| 3 熊鷹峰・黒部湖 | 36 奥羽山 |
| 4 新・立山 | 37 霧王 奥日光系 |
| 5 上高地・信・穂高 | 38 栗駒・早池峰 |
| 6 奥岳高原 | 39 八幡平 奥日光系 |
| 7 御岳 | 40 十和田湖 奥日光系 |
| 8 伊豆山や天狗山系 | 41 二セコ・茶臼山 |
| 9 木曾駒・聖木岳 | 42 大雪山・十勝岳 |
| 10 甲斐駒・北岳 | 43 白山 |
| 11 塩見・赤石・聖岳 | 44 奥山・伊吹・奥京 |
| 12 妙高・戸隠 | 45 碓氷系・碓氷 |
| 13 酒匂高原・草津 | 46 比叡山系 |
| 14 軽井沢・沢間 | 47 京都北山1 |
| 15 西上州・妙義 | 48 京都北山2 |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰 | 49 京都西山 |
| 17 ハケ岳・華科 | 50 北摂の山々 |
| 18 富士・富士五湖 | 51 六甲・摩訶・青馬 |
| 19 新穂 | 52 霧ヶ原・二上山 |
| 20 伊豆 | 53 金剛山・岩手山 |
| 21 丹沢 | 54 紀伊高原 |
| 22 高尾・御岳 | 55 奥高野 |
| 23 大菩薩連峰 | 56 大峰山脈 |
| 24 奥多摩 | 57 大台ヶ原・大杉谷・高尾山 |
| 25 奥武蔵・秩父 | 58 赤目・奥日光系 |
| 26 奥秩父1 奥山・奥山 | 59 水ノ山系・奥山 |
| 27 奥秩父2 奥山・奥山 | 60 大山・奥山系 |
| 28 谷川岳 奥山・奥山 | 61 四国剣山 |
| 29 碓氷三山 奥山・奥山 | 62 石室山 |
| 30 奥山 | 63 権柄の山々 |
| 31 日光 奥山・奥山 | 64 九重・阿蘇 |
| 32 高尾・御岳 | 65 相田・嶺 |
| 33 新穂・新穂・奥山 | 66 奥久磨 奥山 |

(★印は新仕様の地図です)

- 昭文社の「山と高原地図」は年毎として毎年増版発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいませようお願いします。
- 本年度は「谷川岳」と「富士」の2冊が内容一新、改訂新版として発売されました(7月発売)。皆様からのご希望が多かった「奥山」と「奥山」を新規収録。引き続きご愛顧をお願いします。

昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大塚市池田区西中野5-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・名古屋・金沢・京都・広島・福岡



ある。
(北川 裕久)

「コースタイム」
愛宕道バス停(40分)ウジウジ谷合(30分)
野村田尻(1時間)松尾峠(20分)朝日ヶ峰
(2時間)峰山(1時間)梅ノ尾バス停
(1時間) 2万5千—京都北部・周山
合谷道(1時間)

JRバス・京都駅前から「周山」行

エリア別徹底研究
高尾・清滝・愛宕山周辺の山③
爽快な松林と
裏愛宕の峠道
朝日ヶ峰
峰山
京都北山

JRバス「愛宕道」から田尻谷の林道を歩く。杉や樟林のなか、約40分でウジウジ谷の分岐となり左を取って30分、産村田尻に到着。ここは江戸期に集落が形成された細川七ヶ村の一つで、昔「田尻八軒田八反」と俗語に歌われたように八戸の人々の生活があった。現在昔むした石垣と「田尻彦之命(彦子雄の命)」と彫られた石碑があるのみだ。

橋を渡った所に三休の地蔵があり、この先で谷は二分する。右は馬谷を経てカヤノ木峠へ、松尾峠へは左の谷筋を進む。すぐに左岸の荒地に墓地を見る。寂れなのは首の無い地蔵である。やがて山道は二分し、左の麓道に落ちる道を登りつめると松尾峠である。峠に

朝日ヶ峰の分岐から400m程で中川への道が左へ分岐し、右を取って少し行くと右側へ下る虎道があるがやり過ぎず。愛宕主峰から竜ヶ岳への稜やかな稜線が見える。さらに行くくと直進する道と左へ下るような道があり、左を取るると樟林の鞍部に登り、ピーク556へ登り、下った松林の鞍部で左へ梅ノ木谷からの道と合流するが梅ノ木谷への道は笹の生え込みでわかりにくい。小笹の道を登ると右から道が合流し、峰山の主峰へと乗って行く。やがて平坦な尾根になり灌木帯をすぎると美しい松林に入る。ここがこのコースのメインポイント。緩やかな尾根道を下り、樟林の開けた鞍部の正面が峰山である。登り口

は松の古木と南へ少し下った所に大きな石仏を見る。鎌倉期の石仏であり愛宕山茶屋とさく。

朝日ヶ峰へは北東の尾根を300mほど進むと分岐があり、北の尾根へ登るが背丈程の笹が道を塞ぐ。山頂まで20分くらいである。展望は樹木に閉ざされてあまり無いが、冬の木立は特に美しいと思う。さて元の分岐から来た尾根の南側を渡状に登って行き、松の点在する尾根に乗る。これから峰山までの尾根道は笹の下生えする松林が多く、冬期の雪をうつつらと化粧する頃は特に美しい。

峰山付近の尾根道



は南へ回り込んだ所にあり、山頂まで50mくらいである。山頂は雑木林に囲まれ、静かな落ち葉の音がある所だ。

さて、高尾への下りは、峰山の北側から東側を巻く。途中、岩谷の道が左側から左流しく、さびに下ると谷の源頭の水が流れて谷沿いを下って行くと右側から谷が合流し、300m程下れば高尾寺・開山堂の裏側へ下りてくる。

国道沿いの標本橋が「梅ノ尾」のバス停で

エリア別徹底研究

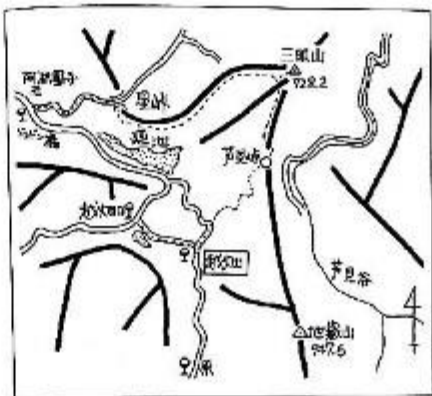
高雄・清滝・愛宕山周辺の山④

松葉きらめく

里山の景観

三頭山

京都北山



「越瀬川」から越瀬方面へ坂道を登ると、左側の墓地に相生松と呼ぶ樹齢三百年の山桜を見る。越瀬川に広がる幾田を眺め、越瀬川の三笠路を右へ民家の隙を登りつめると元来た林道は杉林の中で尽き、10分程で古日峠に着く。以前、峠付近はスキー場であったが今は、静かな松林の検歩でハイカーの憩いの場所となっている。三頭山へは直進せず、松林の手前で道は二分するが右進し、左に控下つて左の巻き道へ入る。松の点在する灌木帯で立派な道である。次の分岐へ火の用心道(巻き道)へ、松葉の美しい道で、鉄路の横をすぎると根道はやがて峠状の鞍部に着く。右を取り、分岐を左へ尾根道を巻き突起を越えた次のピークが三頭山である。松を配した灌木帯の静かな山頂で展望はないが落ち着いた女性的な山である。山名の由来は神野、神宮、越瀬の村に張り出した尾根の頂点であることからである。下山は突起を越えずに下を路を直進すると峠状の鞍部の上部に出る。右を取って杉林の方へ入る。すぐに松林の不明瞭な道となり、左側の廻り池へ下るよう思うが難い尾根に乗り、鬼面方面を眺めながら下ると早く降りた三笠路に着く。左を取り、杉林の巻き道を尾根の北側に沿って歩く。枯れ松のある見晴らしの良い所からは北西に鎌ヶ岳の景観が

三頭山尾根より鎌ヶ岳を望む



素晴らしい。ここから尾根までは松と灌木の調和のとれた美しい樹相の道が続く。途中、左側前方から道が合流し、さらに進むと左側に神宮谷地の牧歌的な田園風景が広がり、星峠に着く。細野川にリゾート地が出来たあか柿は草刈りされ、果樹というロマンチックなイメージからは程遠いものになってしまった。しかし、星峠小屋は健在で静かな佇まいが愛われない。20分も下れば「どんどん横」バス停である。時間余裕があれば阿蘇園寺へ立ち寄るのもいいだろう。(北川 裕久)

〈コースタイム〉
越瀬川バス停(40分) 首尾峠(45分) 三頭山(1時間30分) 星峠(20分) どんどん横バス停(2時間30分)

☆登山道 2万5千〜4万間・悪田
☆交通機関
京都交通バス「JR八木駅から「神古」原行

エリア別徹底研究

京都北山 (一) やぶ漕ぎ痛快山行記

愛宕山鋼索鉄道跡(旧ケーブル軌道)を探索レポ

2月10日例会にこのコースを巡り、みなさんも期待されていたが、思わぬ一番の荒天で中止。ぜひとも再行の希望あり。3月3日の例会山行となった。

バス停に行くところまで雨が降ってきたが今日の臨時早朝前中は10%、午後は0%の予報。そのうちに止むだろう。嵐山で通過行京都バスに乗り継ぐ頃、青空が広がり楽しい山行になりそう。ポーター・イスカウトのグループや5、6人の愛宕登山者など混雑で前向きに。会場指定時刻のバスを待つ。やがてそのバスも定期通り8時29分に到着し、参加者全員の前がそろそろ。足袋東とスパッツ着替えを済ませ、大杉谷金丸作道場への入口へと急坂山出しの林

京都北山グループ

道を進む。作業道に入ると知世の滝を右下に見るあたりから残雪が現れスパッツ着装の判断が功を奏す。今日は一番日の水場から日暮らしの滝の波筋に降りる道をとる。だれも通らない雪の仕事を、丸太橋道場が二箇所あり、スリルある大杉谷谷道左岸をつめる。杉畑林帯木市急斜面を登り進むと正面に日暮らしの滝が崩壊の水を集め堂々と飛瀑をあげている。滝道下に降り右岸に渡り、小休止しながら道を探る。天空の青きと白雲と真黒の岩肌。いつ来ても人ずれしていいな愛宕穴場だ。残雪も深いのでシマ笹履きの直登は相応なアルパイトと予定コースを変更して、左の谷道頭山道をとることにする。左

荒廃した旧愛宕鋼索鉄道山上駅跡



上のルートへトラバース。わずかな距離でも積雪の時、滑落危険で本道に降り出る。雪折れの松の太木が道を塞ぎ障害物除去のような山歩き。尖岩道に近づく斜面は、吹きさらしで深いトレースが付き、予定で足跡をたどりやがて橋梁の小屋手前の急道に出る。積雪期だけかなり時間をくう。清滝が湖夜80分、小屋位置が750は嵐山道にして670にもある大杉谷道、それだけ

に小休止の回数も多かったが11時前に着いたのはなかなかの足だ。

大量に火薬類やお札受けを頼まれている人がいたので神社往復の時間を確保の小屋で待つ。燃費が小屋の由来はなしや橋が若い世代に合わず赤り上げ低調で、カッパライメンやジュース、ビールの缶物売りにかわったこと、仲間のお人が減っていくことなど小屋のお婆さんの話に耳を傾けて時間を過ごす。40分ほどたつて帰って来た。妻は妻はパンパンでツルツル、髪アイゼン着装でないとお婆のおそれありとのこと。小屋持ち組もアイゼン着装正元を整えて、次なる日付点遊園地跡に愛宕山麓へと水庫分岐の手前より左の山道に入る。

人が降んでないので雪雲がいつべんに深くなるが平坦地のビークで歩行も苦にならないう。2000mも進んだか木々の間にコンクリートの荒廃した山上取の姿を見る。大東軍戦争に協力し軌道整備いっさいを供出、撤去以来半世紀におよぶ無人の廃屋「……や、妻の跡」の感。今日参加され、初めて見た方の感じ方は如何なものと……思う。

間口10mほど行き7mほどの二階建て、この階段の中にてお昼弁当にする。軒先にはツララが下がりに気溜もマイナス以下だ。一番のこ

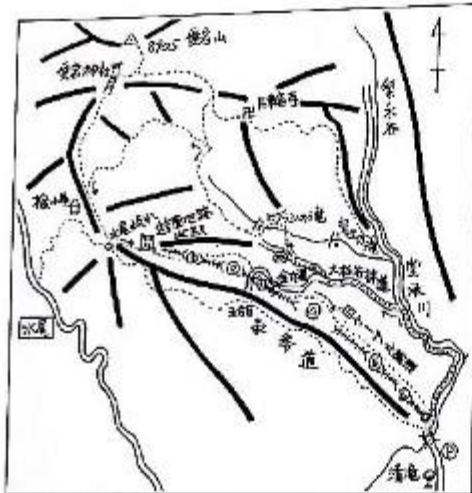
船走は焚き火と全員半分けし枯れ木束めにかかると。特効火起爆剤で大笑き火が炎をあげ、窓裏内の温度を上げて食事時間の暖を与えてくれる。前に来た時にこの建物の扉上から北東面の300度の眺望の王冠が素晴らしい。

たので、食事苦んたを引つ張って屋上展望台へと二階のベランダに上がる。だが持った上がったのか新品のアルミ網子が屋上から下がっている。日陰心が皆さんをオランダ娘に返す。私も上陸舟艇から本船に登る過去のことが脳裏をかすめる。揺れるが大丈夫？、アルミに足確保して……落ちてもベランダまでや」と過々として屋上に立つ。

愛宕山本社跡の墓塔群から朝日峰、峰山から沢山、天ヶ岳から渡杉山、水共、橋島から大比叡、大文字から頼朝山、深く深淵の山々、紫峰山から頼朝山、深く深淵の山々、酒蔵跡の峰々の向こうに小坂山からボンボンの山々、渡津川をほそんで西山ハイウェイが大きく延びている。眼下には青霞みの中に京都市街が一望の好風景だ。時間をかけて楽しむ。勇敢なるお姉さんがたも上がって満足、さぞすばらしかったことと思う。

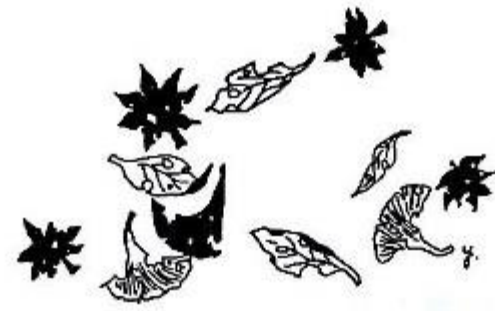
いよいよ今日の目玉、旧ケーブル軌道跡の下り道を説明して駅跡屋を出発。積雪が階段を進めている。この山のケーブルも支那根

後線をつけて右側が左側の斜面に建設されている。ここ愛宕山麓も表参道の北斜面、大杉谷側につけてある。軌道側溝に転落しないよう慎重に進む。何しろ全長2.5kmの軌道跡、その上トンネルが6箇所もあり、2号と4号が長い。1号トンネル通過、2号トンネルに入る。勾配の強い長いトンネル、懐中電灯で照らしトップを行く。ランプのない方は壁面に前の者のリュックをつかみ進む。待避箇所を4箇所も過すあたりから其の闇、進入



でも進んでも、出口の明かりが見えない。おかしいぞう……と手帳が定るが遠く天井付近にホタルのような明かり。つられて進むと土砂の崩壊でストップ。「エライ者みません。今夜来る時はスロップ持つて来ます」とチョンボの大騒まり。2000m程のアルバイ先、2号トンネルの入口に戻り小休止。

先に案内された時のことを思い出し大杉谷側を登る。5分ほど金丸作茶室を横断。踏み跡を伐採直後の斜面に入る。右下にトンネル出口の軌道跡を見て草薙みのダダ下りでルート修正。ヤレヤレでこの階段を通過。上り下りの分離軌道跡を通過。ここが全線の半分のところ。比叡山のケーブルより長い軌道だ。4号階段が口を開けて待つているが先が真つ暗(今度は開かれんぞ)と慎重に慎重先行する。30分も進む、やはり土砂崩壊で行き止まり、又急登。杉林の急降下で左下の軌道跡を見つりすべり降り着く。杉林勾配も緩くなり5分、6号トンネルも短くなんなく通過。清瀬川の発電所の取水管が壁面に見える。軌道終点山麓駅跡広場に無事下山し



た。

昭和4年(1929)に嵐山駅から、時下トンネルを掘削し現在のバス終点まで愛宕山麓気鉄道3・4が開通され同時に渡津川の渡橋の先で、愛宕山麓(ケーブル)2号が開通され御大典後の愛宕巻りの姿を運ぶが、昭和19年(1944)大東軍戦争の軌道跡提供のため、撤去されたと資料で読む。

又會員神田氏から、大戦中ビルマへ供出の愛宕ケーブルを見たという中野子役出の人の話を聞いたとかをきくが19年といえは戦争は激烈、とうてい船で南方輸送は無理かどうかと私なりに思う。当時私も大陸従軍中、軍用船が駆逐艦護衛のもと大陸から九州に着くのが精一杯の頃だったから。

長い2号、4号トンネルの土砂崩壊の原因は中商点の空気取り換気が半世紀にわたりホツカラカシで換気が滞り続け、崩れての連鎖反応で壊ってしまったと思う。又山上駅の歴史的な建物は経年劣化の積累で、の重量と車両を引き上げる機械手動巻揚の古巻として建造された巨大な鉄筋コンクリートの建物で、解体は当時としてはどうにも無理な状態で現在まで廃屋の姿を残したことを思う。

平成3年3月3日歩く
田口 豊次

三輪山に神々を訪ねて

松永 恵一

奈良・大和路のお正月は元旦早曉の大神神社(三輪明神)の歳道祭で始まる。大松明が三輪山麓の十八社を次々に燃らす壮大な火祭り。参拝者はこの神聖な火をいただいて年頭の祝い火とする。

桜井市三輪に鎮座する大神神社には本殿が作られていない。大和盆地の東に位置する標高467.7mの三輪山は、周囲16kmの秀麗な円錐形の山で、千古斧を入れない山は遺跡やおおわれ、古くより三輪の神奈備、神岳、神山とあがめられてきた「神体山」であり、神そのものとして信仰されている。

三代の人々は、神や神靈の降臨を巨岩や巨樹に仰ぎ、その霊岩を懸崖とよび、神聖な橋木を神籬と名付けた。三輪山には三所の懸崖があり、原形信仰の形がそのまま残されている。

る。

丹波の大女の娘子の歌

美酒を三輪の祝がいはふ杉
手触れし罪か君に逢ひかたき

〔万葉集〕巻4、712

コース概観

今回は、大和盆地の東に笠を伏せたような美しい形をみせている三輪山を訪ねる。枕草子に「市はつば市」と記された「海石櫛市」から、わが国最古の旨追のひとつの山の辺の道を北上し、「金谷石仏」を訪ね、大和一の宮としてあがめられている「大神神社」に参拝し、神体の「三輪山」に登り、原形信仰の一端にふれ、果園園の園を曲がりくねる道を歩き、「玄宮園」「三輪神社」と古代文化の香りを

三輪山



味わい、「後述述日三輪姫命墓」まで足をのばす。

近鉄大阪線の桜井駅で下車。北口から出る東北北の方向に秀麗な三輪山が望まれる。駅前広場から北へ、SATYを右折してRの前広場を渡り、木材の町らしく岡間に原木の並べられた道をしばらく行くと「山の辺の道」の道標がある。道標に従って左折し初瀬川を

北へ渡り、初瀬街道を横断すると、海石櫛市である。今は金谷と呼ぶ集落で、路傍の「海石櫛市観音道」の小さな傾いた石櫛が、わずかに昔の名残をしのばせている。

海石櫛市の八十の櫛を、立ち立し
結ひし紐を、解かまく惜しむ

〔万葉集〕巻12、2951

と歌われた歌垣の町。遣使使小野妹々を送つ



て来朝した隋使裴世清の入京を出迎えた街。平安時代は都から長谷寺観音への往還で栄えた。海石櫛市は繁華な所であった。

金谷の集落の中を道標に従って北に道をとる。家並みが途切れる右側に「金谷石仏」の小さな収蔵庫があり、格子戸の奥に一体の石仏が祀られている。この地は弥勒谷と呼ばれる。高さ約2m、傾斜約30度の大きな柱状岩に

浮き彫りされたやさしげな面持ちの弥勒(左)と釈迦(右)の仏は、平安時代初期の白檜湖の道形だといわれ、近在の耳の無いひとの信仰をあつめていた。

左手に見える社は磯城郡蘇我神社(崇神天皇の磯城郡蘇我郡といわれる場所)である。南には多武峰の山がそまれる。三輪山の日本もての山麓の地である。

やがて平等寺の前に出る。かつて大神神社の神官寺として栄えた寺で、十一面観音を本尊とし、境内には江戸時代の仏足石やねつとり地蔵と呼ばれる石地蔵などがある。

小さな橋を渡ると、そこはもう大神神社の境内。三輪山を「神体」とするわが国最古の社であり、俗に三輪の明神さまと呼ばれ親しまれている。主祭神は日本の国づくりを成就せられた大物主大神。唐風風の大きな拝殿はあがるが本殿はない。参拝の人々は拝殿奥の三ツ鳥居を過して、三輪山を礼拝する。酒造、製薬、方除けの神として厚く信仰されている。

拝殿から左に出ると、道は猿井神社へ向かう参道となっている。「猿井のお神木」と呼ばれる薬井戸があり、万病に効くといわれる。

いよいよ三輪山に登る。猿井神社の社務所に「お山する」ことを願ひ出て住所・氏名を申告して入山料200円を払って許可証の白



大神神社 (三輪明神)

中の奥庭、雑草は奥庭の西にある社大な前方後山頂で、耶麻吉園の女王早岐の墓とする説があるが、現在は徳田道日百穂姫命の大市墓に治定され、宮内庁によって管理されている。第百七の墓の起源と古田道雄氏に関して「日本書紀」は次のような説話を残す。

三輪山の神大物主神は倭遠道日百穂姫命を愛して、夜毎に通った。姫は大神に、「うるわしいみ姿を眺めたく思ふ」と申される。大神

タスキを借りる。三輪山は禁足地で、入山は信仰のために許可されているので、いろいろ規則がある。正午三が日毎神社の大祭日の入山禁止。写真機を持ち込み禁止。飲食禁止。3時間以内と同じ登山道で下山すること。登山口からの道はよく整備されている。軽快に登っていくと、岩の間に白い蛇神を祭る岩に出合い、信仰の地であることが強く感じられる。右にとり深い杉木立の口、溪流の音を右にやがて左に聞きながら沢たりに登ると、三光瀬休舎に出る。ここは信地の方が水垢離をとる所である。赤松の急な尾根を登ると景色の素晴らしい石群に出会う。結果がなされている。三合目石ノ原の辺津御堂である。聖なる石群を左に見てよく踏まれた道を進む。生い茂る樹林は深山の趣きすら感じられる。やがて中腹の石群中津御堂。ほどなく山頂の高嶺社の小祠に着く。ここから一りりばかり東方に一大石群があり、鹿津御堂と呼ばれる。おりから木漏れ日が石群を照射すると、いかにも神ましますと実感される。

社務所で下山の報告をし、タスキを返したら右折し山の辺の道に入り、狹井川を渡る。振り返ると三輪山は赤松や杉が繁茂し、雄々しく感じられる。

このあたりは神武天皇の皇后の里があった

ところと「古事記」は伝える。三輪山の神大物主神は勢夜能多良比命という美しい乙女に恋し、彼女が脚で用を足している時に、丹塗りの矢に化つて腰を突いた。比命は跳び上がつて驚き、その矢を持つて来て床に置く。大物主神は麗しい男の姿になって現れ、比命と突つた。二人の間に生まれた比売多良比命須余理比命は、野遊びしているときに、神武天皇に見初められた。狹井川のほとりの家で、山百合の甘い香りに包まれながら、天皇と一夜をすごした比命は、桓原の宮に皇后として迎えられた。

山裾の道に果樹園の間を曲がりくねりながら、玄室庵へと続く。平安初期に玄室御堂が俗座をさけて興隆していたところと伝えられ、福正「三輪」の舞台としても有名である。うす暗いような樹林の間の道をぬけて行くと、神原神社の三つの鳥居が木立の中に誇まり返つていた。崇神天皇の御陵西の伝承地である。ここからの大和盆地のながめはすばらしい。前方の森は雑草。かたに二上山、西南には大和三山が美しい姿を見せる。

倭は 國のまほろば
多々なづく 曹垣 山隠れる
倭しうるはし

檜原神社からまっすぐ西に下りて行くと宮

は「明け方あなたの袖袖に入つてしましよう。しかし私の形を覗て胸かぬやうにして下さい」と申された。翌朝御堂を見ると、そこには美しい小蛇が入っていた。姫は驚いて、叫び啼かれた。大神はたちまち人の形になると、「あなたは言葉にそむいて私に恥をかかせた。私もあなたに恥をかかせよう」と言い結んで御龍山に渡られた。姫は毎いて、善にて塗をつきおなくなりになった。世人は姫の墓を聖墓とよんだ。

この墓は、人は人が作り、夜は神が作った。石は大坂の山(二上山)から運んだが、運ぶ人民が相違さに手直しして運んだ。それで時の人々が歌った歌がある。

大坂に 継ぎ登れる 石群を
手邊傳に感きは 越しがてむかも
管中のパス管から松井駅に出る。

〈コースタイム〉
近鉄上本町(急行37分) 近鉄松井駅(30分)
海石橋市(1分) 釜谷石仏(10分) 平等寺(20分) 大神神社(5分) 狹井神社(三輪山往復1時間30分) 20分 玄室庵(5分) 檜原神社(30分) 聖墓(5分) 管中パス等(パス15分) 近鉄松井駅(急行37分) 近鉄上本町駅(急行)

GAIJA

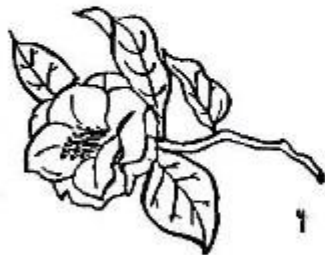
キャンプ・ハイキング ザック

テトラ 48ℓ 赤札 ¥9,000
アリゾナ35ℓ // ¥6,800

GAIJA JAPAN
ヨシスポーツ

〒643 大田市天王寺区南河橋4-70
TEL06(772)7231
FAX.06(779)2191

特長
① パラレル、インナーフレーム付
② スーパーウエストベルト付



近鉄上本町駅、近鉄松井駅 490円
三輪明神参道口、近鉄松井駅 140円
管中、近鉄松井駅 1900円
三輪山入山料 2000円
金形(約) 2万5千円(要弁)
問い合わせ先
大神神社 07444(2) 66333
奈良交通バス本社 0742(22) 52663
松井市役所 07444(2) 91111

新春の山

特選 コースガイド

- ① 稲村ヶ岳
- ③ 鎌ヶ岳
- ② 天高山
- ④ 武奈ヶ岳



登山を本格的にする人達は年末から冬山へ出かける。初日の出の御光をアルプス山頂で迎える新年の気分は格別だろう。八ヶ岳などは多くの人が入山し、白い雪の上に色とりどりのテントがいつぱい。山小屋も開けられ

正月は初詣、恒例の神社へおまいりし、今年の無病息災、家内安全、そして山行の無事を祈願する。

新春の山

正月は初詣、恒例の神社へおまいりし、今年の無病息災、家内安全、そして山行の無事を祈願する。

私達、ハイキング派はそんなベテランのように3000以上の級の冬山はとて無理。日帰り山行で近郊の山を歩く。初山行は新年会がかねることが多い。山行後、ひと風呂浴びて、気の合った仲間との宴会は楽しく盛りあがる。早起をかついで干支の名のつく山へ行く人も多い。三河の旗掛山などにはきわいそだ。

関西で冬山が体験できるのは、伊吹、鈴鹿、比良、台麓、大峰など。積雪量が50cm以上あれば冬山の気分がでる。日曜歩けないヤブ山などはむしろ積雪期のほうが歩きやすい。雪の量の中は輪カンジキが威力を発揮する。

樹氷の山もよい。金剛山、百見山、三峰山などがよく知られ、シーズンは専用バスも運行される。青空にキラキラひかる樹氷はこのほか美しい。

雪はいやだという人は近郊の低山へ、ほとんどの山は雪もなく、いつもと同じように歩くことができる。

寒いからといって、コタツに入っていないで身支度をしっかりし、思い切って出かけてみよう。耐寒登山をすれば身体も丈夫になる。晴天の日が続く冬こそ、山行の機会に恵まれることが多い。

たのしい山歩き

尾瀬雑考②

「ジャンケン大会」

松下 満

いま、尾瀬に興心のある人に「尾瀬は」と問えば、10人が10人「水芭蕉」と答える。ラジオ歌謡「夏の思い出」がヒットするまでは、尾瀬といえは「ニッコウキスゲ」の尾瀬であった。

昭和20年代後半より、上越線沼田駅前より大清水行き・富士見下り行きのバスが運行されるようになり、入山者の数が急増した(この時期、現在の沼山峠口・鳩待峠口・奥只見コースは開発されず一般化されていない)。

入山者は温泉の歩きやすいところを感

び、休憩時には夏山な場所にも尾瀬等の敷物を敷いて休息をとり、なかには小宴会を催しているグループも見られた。

その後、温泉の保護、高山植物の保護の機運もたかまり、歩きにくい遊歩帯を対象に部分的に木道が敷かれた。高所に在る「アヤマノ平」と不便な「白砂温泉」は木道の敷設が遅れ、ご存知の如く回復に何百年もかかるであろう現地化されてしまった。現在その修復作業が行われているが昔の姿に戻るのはいづの日であろうか。いま尾瀬ヶ原で修復現場の一端を垣間見ることの出来る場所が、下田代から三条の滝へ向う木道で、東麓小屋方面への分岐点である。

初期の木道は尾瀬沼・尾瀬ヶ原周辺の風倒木を主に利用したと記憶している。丸太材を縦割りにし、平面を上にして置いただけの木道で、歩くと左右に揺れ、バランスをとりながら歩くという代物で、大雨が降るとゴカゴカと浮いて流れ出し三条の滝を流れ落ちていったものである。勿論現在のような複線でも単線でもあった。歩行中対向者に出逢うと、どちらかが道を譲らなくてはならない。いつとはなく「ジャンケン」で負けた方が温泉

尾瀬ヶ原の木道



へ下りる風景が見られるようになった。先頭が2回も負けると先頭を交替し、常にジャンケンに強い者が先頭を歩くようになった。

マスコミでは、これを「尾瀬のジャンケン大会」と報じた。現在の木道からは想像のできない昔懐かしい光景である。

特選コースガイド ②

忘れられた京都の山

天高山

東山

初級コース(★)
坂井久光

この山は京都市左京区修学院霊宮の東方に聳える小山で、比叡山の支尾根の突起に過ぎないので、登る人も稀な静かな山である。古名は掛橋というが、これは東北方の白河の支流地蔵谷を言羽川との分水嶺の最低部には、橋を掛けたような地形から由来する地名で、その近くにあるので命名されたものである。地元の子供から名を聞いて山名を知った次第で、地図には山名は書かれていない。京都市バスの一乗寺清水町のバス停で下車して霊珠院なる門跡寺院への道を進む。昔はのどかな田舎風景の現れた此の辺一帯は、今や住宅地帯となり、観光ブームによって、沿道には観光客相手の店も多くなくなって昔の面影は見当たらない。

天高山3等三角点



緩い坂道を登り詰めて左にお社があり、境内には、池やそば屋があり一休みの場となっている。霊珠院に突き当たって右に約100mほど程行くと、山側の左手に登山口の林道に藪がかかっているが横から突き入れる。一帯は武田源次郎と薬師Kの菩提園が広がっていて、各別荘が茨山栽培されている。道は一乗寺川に沿って通っており、始めは広いが先は草が茂りだんだん狭くなり、藪で

(この花・この草)

南天(ナンテン)メキギ

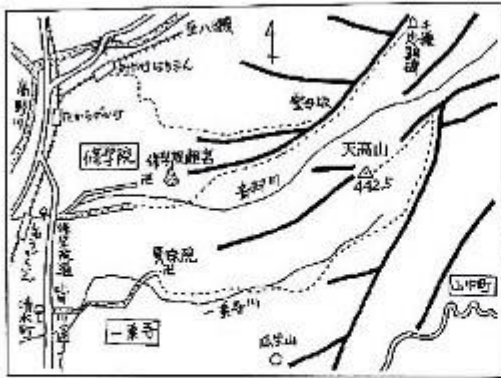
(Mertensia domestica)

秋から冬にかけて赤や白の葉を扇状につける南天の実は、酸っぱいとして有毒です。

日常生活の中で南天は広く利用されてきました。例えば、赤薬の上に置く南天の葉は、何代も使われてきました。これは、葉が含めるナニニンガ、強い毒薬の下で熱と水分によって分解され、チアミン水素が再生します。このチアミン水素、実は結構ですが、徳薬では毒性性がなく、それどころか殺菌効果を持ち腐敗を防止するといえます。われわれのはこのです。

また、南天の葉にはアミノ酸がありますが、これは毒味をした苦味、酸味、前へ走り南天の葉を噛んで舌を噛み、薬味と腐敗作用によってその毒を減らす……と書かれています。

ナンテン全体に含まれているアルカロイドの下メスチンやナンシニンは、小量では薬となりませんが、多量に摂取すると、呼吸中枢が麻痺し、死に至ります。



対岸に渡って谷川を通り高巻いて高巻を標いで峠を渡ることになり、注意が肝要である。西方が見晴らせる地点もあり、京都の市街や西山方面が一望出来る。やがて接線に達すると、南の北白川から瓜生山を越えて通じている山道と合して右に地蔵谷を見下ろして北に進むと道は広い林道になり、地蔵谷を過ぎて進むと3000・4000の先で杉林を左に見る地点に達する。土砂崩出防備保安林の標柱付近から左の接線に向かかって遊歩道を進むと、既述道に出て、腰や小松・栗・松等の雑木林を過ぎて進むと左に3等三角点がある天高山(442・541)に達する。西に展開が開け、松ヶ断の東山が、北東に比叡山が、東に一本杉のピークが望める。南には林や他の方向は展望がない。山頂は小さい所だ。

経路は南へ瓜生山經由北白川、北に向かって掛橋から左に下って言羽川を渡り、山腹を巻いて子神原頭の水飲対陣の碑に出て、修学院に下るのもよし、余裕のある方は比叡山に足を運ばされるのもよしだ。

- ①コースタイム
- 一乗寺清水町 25分 登山口 50分 戻り道 20分 天高山山頂
- ②分 京都市バス(修学院行)系統 京都駅 交通 京都市バス(修学院行)系統 京都駅 (約1時間) 一乗寺清水町

兵庫丹波の山上

慶佐次盛一著

四六判・二〇〇〇円

氷上郡の山一低山といえども新鮮な山域。丹波最高峰・栗庭山ほか約100山そのほとんどもを網羅する。各山地図付。下巻「多紀郡」来春

新刊

京都北山を歩く(3)

澤 潔著

四六判・一九〇〇円

地名語源・歴史伝承と民俗をたずねて一大堰川・由良川の源流を溯って丹波吉原東の最奥部に入る。1巻、2巻好評発売中。各一九〇〇円

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
電話 075-751-1065 千606

三つ口谷から

鎌ヶ岳

鈴鹿

中級コース (★★)
小山 ひろし

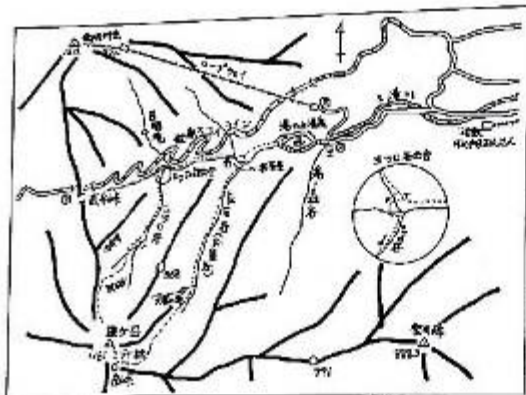
岩登りは別として、鈴鹿山系で最も急峻な山は鎌ヶ岳である。今回は、三つ口谷から鎌ヶ岳に登り、岳頂、長石谷を下るコースを紹介したい。やや健脚向きである。近鉄湯の山温泉駅から湯の山温泉までバスで10分。土産物店にはさまれた急坂に始まる車道を、三流川に沿って40分詰ると一の谷茶屋。タクシ―なら湯の山温泉駅から15分である。茶屋で登山届を書き、あらかじめ計画書を作成しておく。時間のロスがない。準備を済ませ、茶屋のおばさんは、無届登山を見送すようなことはしてくれない。仲間うちでここを安宅の岡と呼んでいる。車道行き止まりへの急坂を右に分け、茶屋のすぐ先の一軒家に続く石段をのぼる。武平峠への道である。すぐに

左手の赤錆の小樺を渡る。右手の鈴鹿スカイラインに付かず離れず、15分程いくと、懐に小広葉をかかえこんだブナ林に着く。「ブナ原始林 三重県指定天然記念物 菟野町教育委員会、菟野財産区」という案内板が立っている。景なお暗い。谷がすぐ傍を流れており、藪登り可能である。程なく



道は、スカイラインと接しながら続く。左手に二段式の大擁壁がそびえ、擁壁に、「三つ口谷北堤、三重県土木部、三つ口武平峠分枝」という文字板がはめこまれている。擁壁上部で道は二つに分かれる。右手、武平峠への道と分かれ、「三つ口谷入口」という道標に従い左手の谷に下る。東多古知谷である。花崗岩の転石を乗り越え、右に小さく巻くと左手の谷に出る。武平峠からの水谷である。そのまま直角に右岸に渡り、左から少し巻いて下った所が三つ口谷。ここは三つ口谷の合流点なのである。山に向かつて左崖が三つ口谷ということだ。急な左岸(右)を小滝を見ながら進むと、正面に、幅よりも丈の擁壁が立ちよさがっている。直下

の流れをひとまたぎして、左からこれを超え。左岸を三分詰ると、「三つ口谷の頂上へ」という古くて小さな道標が、谷間こうを指しているが、曲がらずに直進。炭焼き跡の石積み跡を通り、道は黒の中を貫いている。程なく右手からの小さな流れをまたぐが、ここで道は二つに分かれる。「左、滝道(直登)右、廻り道(一般コース)」の標識がある。滝までわずか1分だから、一般コースをとる場合も滝だけは見ておくとい。滝の名は、三つ口御滝。鎌ヶ岳御滝とも。滝登りには、水は豊富だ。夏期には大文字堂、ギボウシ、シヤクナゲ、ガクアジサイ等が見られる。冬期は凍付くことが多いから、足元要注意である。ちなみに冬期のこのコースは、アイゼン



輪カンを持参していく方が無難である。直登コースのとっつきは、滝の手前10分の左岸。高巻き10分で一般道と合流する。合流点から程なく沢道となり、左手に落着く。おぼろの滝が思えてくる。つつ切れないことはないが、無難をまず、右手の巻き道をとる。滝上段に出ても足元は滑りやすい。そのまき沢を渡り、こ

次第に水が無くなり、谷はV状に割れる。右が本沢であるが、左の方がそれらしい顔をしているので間違えず。沢は程なく、武平峠からの崖道(根下)のガレ場に着く。この辺り見送り草が多い。踏跡を確かめながら、ガレ場の右よりのルートで、右の沢に入り込まないよう、落石を起さないよう注意しながら慎重に登る。7〜8分で滝線に出る。上方に、頂上付近の岩塊が望める。残りの尾根は急登で足場が悪いが15分足らずで頂上である。360度の展望台はなかなかのものである。復路は、頂上から一気に東に下っている。登りにバスしてきた尾根道をとるのもよし、武平峠を下るのもよし、時間に余裕があれば、鎌ヶ岳、湯の山方面への眺望、岳頂に下り、そこから北東に下る長石谷コースをとるのもいい。頂上から岳頂までは10分、岳頂から一の谷茶屋までは約1時間である。下り口の5分がややカンている。50分下った所に「大星の大池」がある。ぜひ見ておきたい池であるが、登山道から数10メートル左に入り込んでくるので、標高を常に頭を配っていないと、つい通り過ぎてしまう。ナメ池、小池、青い湖など、変化に富むこの長い谷の終りは、ちょっと無理をしてミニ十坪池、ミニ三坪池とも呼

びたい雰囲気のある川原である。すぐ下流の大堰堤によって作り出された、絶好の休憩場所である。砂地の中程にムラサキシキブの大きな一葉がある。この葉の左手辺りに高巻きのとっつきがある。少し滑り落ちて分りにくい。先はそれ程でもない。堰堤工事でも分ちよん切られたのであろう。左からの小さな尾根を越えればあとは一気に下るだけである。しかしこの下り、わずか半分だが足場が悪い。下り切った所で、左からの小さな流れにぶつか。三つ口谷の下流である。前方すぐの所に、往時に通った一の谷茶屋への車道が見えている。湯の山温泉まで、下り30分である。(田成2年1月歩)

- ①コースタイム
- 近鉄湯の山温泉駅(バス15分) 湯の山温泉バス停(40分) 一の谷茶屋(20分) 三つ口谷道分枝(1時間40分) 湯の山温泉(10分)
- ②鎌ヶ岳(20分) 鎌ヶ岳(10分) 岳頂(50分) 大星の大池(1時間10分) 長石谷分枝(30分) 湯の山温泉バス停
- ③地形図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

雪の比良

ぶながだけ
武奈ヶ岳
比良

中級コース (★★)
濱田啓司

西面東側の冬遊気任館飯が緩み、穏やかな日曜になった。新聞には比良山スキー場の積雪は1月10号と出ている。久しぶりに雪の比良山に出かけた。

「比良湖西線の比良駅から「比良リフト前」行きのパスに乗る。バスはスキーヤーで混んでいた。比良山は登山リフト(途中ロープウェイに乗り換え)が北比良峠についている。リフトは雪のある休日の朝はスキーヤーで混んでいるので、下手をすると1時間以上も待たされる。夕方の下りも同じだ。暗れていればリフトは空車の展望台で、足下の琵琶湖と釈迦岳をはじめとする周囲の山が見えて気分爽快だ。

ロープウェイを降りるともう標高1000m

計の北比良峠。雪は深い。スキー場へ向かってコースがついているが、踏み跡をつけないよう登山用の道を通ろう。ロープウェイ山上駅の正面から灌木の中を小川に沿って下ると、八雲ヶ原スキー場の下に出る。スキー場はリフトもかかり、派手な服装のスキーヤーで大混雑だ。

リフト待ちのスキーヤーの間を縫って八雲ヶ原ヒュッテの前を北に抜けた。コヤマノ岳にかかる第2リフトの橋からイブルキノコバに向かう。スキー場を離れると急に静かになった。登るに従ってだんだん雪が深くなって来た。コヤマノ岳の中腹をだらだら登りに巻いて、谷を横切りイブルキノコバに着いた。支谷は雪で埋まっている。ここで昼食にした。

今日は日曜で登山者が多く踏み跡もついていないが、降雪の直後はラッセルが大変だろう。かなりの傾斜の雪の谷を、爪先で蹴り込みながら登ってコヤマノ岳への分岐に着いた。50分かった。目前に白い武奈ヶ岳が見え、頂上の人が立っているのが見えている。頂上までもう一息だ。頂上への登りは雪が深く、踏み跡の両側は1/2歩半くらいの雪の壁だ。

比良山の最高峰、1214・4mの武奈ヶ岳の頂上に着いた。素晴らしい眺望だ。琵琶湖から湖北の山並、足元には八雲ヶ原のリフ

ナ林に冬の陽光がさして雪面に長い影を作っている。逆光に雪がきらきら光っていた。右にとればワサビ峠から西面に出る。

ここから左にヨキトウゲ谷を下った。雪に埋もれた熊笹の小道や、谷川に沿ってのつるつる道を右岸や左岸に渡ったり、岩の上に登ったり下ったり、丸木橋を渡ったりしながら、思ったより時間をくって、奥の深谷との合流点に出た。アイゼンをつけての歩行だからかなり歩きづらかった。ここから左に谷を少し通り、八雲ヶ原への道と分かれて少し登ると素晴らしい展望の金沢峠に出る。

V字に切れ込んだ正面谷の向こうに琵琶湖が広がる。アイゼンを締め直してここから逆谷と同じ正面谷を下った。凍っている時は滑りやすいので慎重に下ろう。また上からの落石にも注意が必要だ。雪が柔らかい時は思



イブルキノコバにて

ったより安全で、尻滑りを楽しむ人もある。急傾斜の谷の下りは早く、アツという声に灌木帯に入り「背ガン」の上に出た。左岸の岩の間を下る。ガレ場だから慎重にスリッパしないよう、落石をしないように下ろう。降りたら対岸の林道に出る。

ここを過ぎたらもう難しい所はない。琵琶湖を見ながら林道を下る。途中「大山口」でアイゼンを外した。大山口は北比良峠へ登る分岐だが注意をしないといと通過してしま

う。 砂防ダムの茶色の鉄の帯が出てくると、まもなく正面小屋の跡に出た。コンクリートの橋を渡るとイン谷口のバス停はすぐだ。

なおこのコースはリフト・ロープウェイを使った楽な計画だが、脚力・実力・天候・積雪量などによっては正面谷から中峠・ワサビ峠・西面稜へ武奈ヶ岳へ下りは北比良峠からダク道を大山口に下るなどのルートがとれる。

(完成まで1日歩く)

〈コースタイム〉

山上駅(10分) 八雲ヶ原(20分) イブルキノコバ(55分) 武奈ヶ岳(55分) 中峠(45分) 金沢峠(40分) 背ガレ(50分) イン谷口バス



トも見えている。雪の西南稜に踏み跡が深い。足下の隙部からコヤマノ岳にかけての雪の積層が美しい。打見山のホテルの向こうに、白く丸い霧凇山の姿やスキーリフトも見える。アイゼンをつけて下りにかかると、下りはコヤマノ岳から中峠経由のルートをとった。登ってきたルートを引き返し、下の破部分岐からコヤマノ岳に向かう。人影がなくなり静かになった。コヤマノ岳を越える

と真正面に霧凇山が見える。ラッセルの跡が細くなった。雪の下から熊笹が出て歩きにくくなった。尾根筋を通ったり木立ちの中を縫って下ったり、時々深雪に足を突っ込んだりしながら中峠に着いた。晴深い静かな峠のフ

停

地形図 2万5千 北小松・比良山
昭文社「比良山系」

〔冬の比良登山の注意〕

冬の比良登山には慎重に行わない。比良は積雪が多いので跡み跡のない時は大変で、少人数のラッセルは時間がかかり、無雪期のタイムは役に立たない。また寒気団の強い時は、気温もかなり低くなり、風も強いのでそれなりの準備が必要だ。ガスが巻いた時も見過しが利かず注意を要する。

山頂にはびわ湖パレオスキー場や比良山スキー場があつてホテルやヒュッテも開かれているが、ここを一步降りると冬山の危険はいっぱいで、そのつもりで行動を要する必要がある。

日の出—中山奥の院—谷谷原
—海神(谷谷原)一海神神社(約
7.5km)参加自由。観音堂灯
持参下さい。初詣乗車券(三福ま
いり)をご利用されますと個別で
お貸。発着は全駅で。阪急山の係
06(3773) 53226
06(3773) 53226
▽サンスポ1000「ハイク」六
甲・住吉川上流・金馬山コース
1月12日(日)同天中止小幡行、集
合深田池公園(朝影駅)東徒歩北
へ3分。9時~9時30分へコース
深田池公園→白鷺美術館→荒神山
新道→五助ダム(往古池→雨
ヶ峠→ゴルフ場→横池→嵐吹岩→
金馬山→保久良神社→岡本駅(約
13.5分)参加自由。阪急山の係
06(3773) 53226
▽スポンニヤングハイク「北城・
みのお上天ヶ丘、五月山公園コー
ス」1月26日(日)同天中止小幡行
行、集合高安寺境内(貴面駅)車
道徒歩約10分。9時30分へ出
発10時へコース。浅安寺→紅葉橋
→化石谷→オウ原林道→旧政の茶
屋→(P)シタ・センター→末上

夕雲橋→ドライブウェイ→五月
山公園(秀望寺)→池田駅(約13
.5分)参加自由。阪急山の係
06(3773) 53226
「阪急ハイキング」当日の中止
決行のお問い合わせは「朝7時以
降」次の各駅へお電話で、
梅田駅06(3773) 52118
三宮駅078(3331) 48002
河原町駅075(211) 103
2
▽2月の予定は検討中です。各駅
の情報を見て下さい。
「関西」
▽1月、2月はハイキングの実施
計画はありません。
「神門」
▽神鉄ハイキング「性海寺と鬼おど
り見物ハイク」1月15日(日)集合
押部谷駅10時20分へコース。押部
谷駅→近江寺→生吉神社→性海寺
(鬼おどり)→押部谷駅(約10.5
分)参加自由。神鉄観光事業部078(5
21) 03211

▽神鉄ハイキング「紅葉谷と六甲
山麓ハイク」1月25日(日)集合
鞍馬山駅10時35分(有馬温泉駅
南約1.5km)へコース。有馬温泉駅→
鞍馬山公園→紅葉谷→桂葉茶
屋→六甲山麓高野→(魚屋道→
有馬温泉駅(約10.5分)一般回
※アイゼン必携。神鉄観光事業部
078(521) 03211
▽神鉄ハイキング「多聞寺お参り
つりと古登山ハイク」2月11日
(日)集合有馬口駅10時15分へコース
有馬口駅→約谷澤→長尾谷→十王寺
山→多聞寺→お塔まつり→神鉄
六甲駅(約7.5分)一般回。※アイ
ゼン必携。神鉄観光事業部078
(521) 03211
▽神鉄ハイキング「丹生山と三津
田道ハイク」2月23日(日)集合
那駅9時20分へコース。那駅→
(那古道)→丹生山→シレン山
→三津田→お塔まつり→神出山
→田原道→那駅(約17.5分)一般回
※アイゼン必携。神鉄観光事業部
078(521) 03211

「山陽」
▽山陽ハイキング「ひざどり森林
公園ハイク」1月19日(日)集合
代駅(本社前)10時へコース。西
代駅→高取山→丸山→ひざどり公
園→神鉄線(約12.5分)一般回
山陽ハイキング係078(6
112) 2112
▽山陽ハイキング「堀山・鬼お
どりハイク」2月11日(日)集合
北公園10時へコース。山陽線(約
11分)高取山→堀山→神鉄線→
白甲→堀山→神鉄線(約7.5分)
一般回。山陽ハイキング係0
78(6112) 2112
▽山陽ハイキング「高取山・イヤ
ガ谷東尾根ハイク」2月23日(日)
集合西代駅(本社前)10時へコー
ス。西代駅(本社前)→高取山→
丸山→イヤガ谷東尾根→若杉→神
鉄線(約14.5分)一般回。山陽
ハイキング係078(6112)
2112
「関西」
▽1月、2月はハイキングの実施

計画はありません。
「奈良」
▽万葉の大和路を歩く会「うちぢ
さす飛鳥・藤原の宮」1月19日
(日)集合近鉄橿原駅前中央口9
時30分へコース。橿原駅前→
石舞古墳→飛鳥板蓋宮前→廿楯
丘→大宮大寺跡→香久山→万葉歌
碑→大宮久山神社→藤原宮→大和
路→藤原宮→万葉歌碑→橿原駅前
前駅(約7.5分)参加自由。万葉の
学教授藤原和彦氏。
▽万葉の大和路を歩く会「練持つ
むか石上・山の辺の道」2月9
日(日)集合天理駅9時30分へコース
天理駅→大和神社お蔵所→内山水
久寺跡→石上神宮跡→布留川→ワ
ナナリ塚古墳→日池→和南生赤
坂古神社→和南下神社→人麻呂
歌家→天理駅(約8.5分)参加自由。万葉の
学教授藤原和彦氏。
○右「万葉の大和路を歩く会」への
参加は無料ですがテキスト代400
円の出のほかに代、拝観料などが
必要。申込制で一週間前までにハ
ガキか前払で。奈良交通「万葉の

大和路を歩く会「保0742(2
2) 11771-6330奈良市大宮
町1-1の25
▽日本文学の四季「藤原直哉と兼
良の文学者たち」2月15日(日)集
合現地兼良、集合近鉄奈良駅前
奈良ライオンハウス3階礼拝ホール
午前10時。兼良コース。浅草ヶ原
→ささやまの小道→高畑の旧宅→
直哉邸(奈良文化女子短大セミナ
ーハウス)。見学とお参。新薬師寺
→観音堂池の相掛り→近鉄奈良
駅(約4.5分)参加自由。10時~11時30
分(孔雀ホール)。講師藤原山崎
大学教授鈴木昭一氏。参加費7
500円定員50人(お問い合せ・
申し込み)0630奈良市大宮町
1-1の25奈良交通「日本文学
の四季」係0742(222) 11
71まで。
○お知らせしました情報につきま
して詳しく知りたい方は各主催係
まで直接お電話でお問い合わせ下
さい。

「近畿」
「近畿ハイキングガイド」は関
西の私鉄沿線を中心に各社が企画
している山行例会などの情報をお
知らせするコーナーです。今月号
は、協力をお願いした各社の情報
ばかりですが、このほか各山岳会
の公開ハイクや歩け歩け大会な
ど、又各種団体の企画した文学、
歴史散歩などありましたら併せて
掲載しますので情報提供を「新ハ
イキング関西」までお送り下さい。
掲載料は無料ですが、寄附目的の
場合は送料(二件3000円)と
なります。
次号掲載は3月、4月分の情
報を。原稿締切は1月10日頃まで。
原稿は1行15字詰めで書いて下さ
い。パンフレット、チラシなどで
説明されているものでも結構で
す。
尚、原稿の都合で掲載できない場
合もありますので、その前に「寄
致」下さい。

大阪低山登山会
主日(日)朝7時で関西の山々を歩き
歩いて11年になります。ハイキング
から軽登山まで、少人数のメンバー
で山と自然に親しんでいるグルー
プです。
少し遠くへ足を伸ばしたいけど
一人では自信のない方。登山ガイド
にも紹介されていない静かな山や
野を歩いてみたい方。私たちはそん
な新鮮な登山スタイルを求めています。
どうぞご入会下さい。
40才以上の男女であれば経験は
問いません。入会は随時。地形図の
読み方、三角点のことなど親切に
指導致します。配付切手同封の上左
指す。
〒536 大阪市城東区野江2の
5の19
連絡先 二

山行計画 SHC 関西

このページの山行計画には、「会長に原稿を待たせてあるほかは会員の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように入会して申し込んでください。費用のほかに参加者による他の資料代金を徴収することがあります。また、山行申し込み後参加できなくなった場合は当日まで係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例金の参加者全員に活動保険がかけられています。出発前日の朝、係に保険料(日額50円)・夜行日帰りの場合は8日になり1000円)を支払って頂きます。(AIC保険会社と契約) 保険料以外の内容は次の通りです。

- 死亡・後遺障害保険金額 1000万円
- 入院保険金 5000円
- 通院保険金 2500円

保険の対象は発動時から解散時まで。事故があった場合は解散時点で係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。
 ①ビックル・5木爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー使用の山行。③沢・岩・水登り登山を目的とした山行。④宿泊場所内の事故(詳細は後述)

(記入例) (往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行 〃

期日 〃

住所 〒

電話番号 〃

氏名 〃

会員番号 (会員でない方は会員外も記入)

生年月日 (年齢)

緊急時の連絡先

返信用ハガキの宛て名刺にご自分の住所氏名を記入してください。

京都北山歩き。
 期日 朝日峰・峰山(二般向き)
 1月15日(祝日)日帰り
 集合 京都市R165のりば8時30分
 コース 京都市R165(東山)→松尾峠→朝日峰→峰山→高尾寺→一の尾→京都市
 費用 約1500円(交通費)
 地図 昭文社「京都北山」
 申込み 村田智徳(中西信行) 〒610-0010 城陽市寺田大群10の10 村田まで
 東京行の幹かなコースです。本誌4月号記事参照。雨天中止、小雨決行。

文学歴史ハイク2
 三輪山(二般向き)
 期日 2月2日(祝日)日帰り
 集合 近鉄板井駅北口9時
 コース 板井駅→金谷石仏→大神神社→三輪山→松原神社→善基川板井駅
 費用 約1500円(近鉄上本町駅～板井駅交通費・入山料2万5千円)板井(松永恵一)
 申込み 〒580-0000 松原市岡2の2

日本最高位の温泉 (2400℃)
 立山・菅沼平
 みくりが池温泉
 〒930 富山県五箇末広町
 0766441-0434

ハイキングにノースキーにノースキー
 志賀高原 石の湯ロツジ
 バス 熊の湯線平下下車
 026913412421
 東京本社・東京都新宿区新橋3-1-2015(新大塚ビル)
 (株)スノーシューサービス
 031334110211

黒姫山・妙高火打山・雄嶺山
 山梨山・前名瀬ハイキング
 大自然が楽しめる四季の峰
 日原道 シャレレ 黒姫
 〒389-113
 長野県上水内郡信濃町黒姫温泉
 0266215513171

第6回「日本カモシカ毎日」20頭以上、北の雪形観察、北の全体の大観望の場、春は山菜等
 原野風呂・露天風呂
 あるおすいん 満山荘
 〒3882 長野県上高井郡高山町山田牧場・高山温泉
 0265214212527

の22松水まで
 三輪山の神の烈しく切ない恋の残影を求めて歩きましょう。初詣またの方もどうぞ。本誌40頁記事参照。雨天中止

鈴鹿・藤原(やや健脚向き)
 期日 2月9日(祝日)日帰り
 集合 三枚鉄道西濃駅乗り時
 コース 西濃駅乗り→大日自造→八合目→藤原山荘→藤原屋敷(丘)→松尾コース
 費用 保険代500円のみ・交通費不要(西濃駅までは各自で)
 地図 昭文社「富士山・伊吹・藤原」
 申込み 〒519-0033 鈴鹿市大久保町2065 榎垣まで
 冬山装備、山頂の展望は360度。雨天中止、小雨決行

京都北山歩き4
 天ヶ森(ナツチヨ)(二般向き)
 期日 2月9日(祝日)日帰り
 集合 北大路バスターミナル8時40分
 コース 北大路駅→小出石→登山

口→天ヶ森→ミクニ峠→三谷口→山頂(朝日)
 費用 約1500円(交通費)
 地図 昭文社「京都北山」
 申込み 村田智徳(中西信行) 〒610-0010 城陽市中田大群10の10 村田まで
 たがみの中を歩くこととなるので、アイゼン持参。雨天中止、小雨決行

田代緑子 三田貴江 ○中西信行
 ◎村田智徳 計15名
 新ハイキングクラブ関西
 入会のご案内
 このページの山行計画を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちといっしょに味わいませんか? 「リーダー」係はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてアメリカンです。新ハイキングクラブ関西の活動はまだまだ始まったばかりです。あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会員には毎寺「新ハイキング・訓練講座」の山(年間6回)をお振りします。会員はこのページの山行計画に参加できます。入会金 500円(バツジ代) 年会費 2500円(送料共)です。切手代500円をお送りになれば見本誌1冊を差しあげます。新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に届く人の返信用紙をご利用ください。第四号から送本せよと明記下さい。

あなたのふる里になりたい
 スキー場まで歩いて1分
 白馬ファミリアペンション
 和田 森
 〒399-193 長野県北安曇郡白馬村八幡和田野
 026617215351

八ヶ岳北麓縦走の中心地
 59年秋新築完成全館個室
 木の香気、新鮮な温泉、水療施設
 オールレイン 小屋
 1泊2食付 4500円
 4月～11月末開業
 〒391-102 長野県小平
 02661721279

日本唯一の女人社術の山
 大雪山(百名山)の登山口
 福村タチバナコースもあり
 温泉・名水の里
 旅館 紀の国屋 雲八
 1泊2食付 7,000円から
 〒630-0044 和歌山県新宮市
 074766440309

九井の湯温泉・日本百名山
 宮の湯温泉(一歩近い温泉)
 長久保温泉 磯辺 荘
 〒899-143 鹿児島県長岡市
 0999741613021